

# 令和5年度 第2回 朝日地域振興懇談会

## 次 第

日 時 令和5年10月12日（木）  
午後6時開会  
場 所 朝日庁舎4階 大会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 協 議

(1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について 資料4

(2) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について 資料1 参考資料1, 2, 3, 4

(3) 朝日地域振興計画(案)の具体的な施策について 資料2

(4) 朝日地域まちづくり未来事業の取組状況について 資料3

(5) その他

### 4. そ の 他

### 5. 閉 会

## (5) 朝日地域

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。

しかし、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援~~など~~に加え、地域を支える人材育成・確保やデジタル技術のモデル活用などにより、地域の暮らしを守り支える取組を進めます。

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や担い手の育成・確保、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や歴史、伝統文化、食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。

### ア 中山間地域における定住環境の支援

#### ○施策の方向

地域住民が住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や支援を行います。また、住民による生活基盤の維持、強化に係る取組を支援するとともに、地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、次世代を担う地域を支える人材の育成・確保を進めます。あわせて、地域資源である自然環境を活かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを進め、中山間地域の暮らしを守り支える取組を行います。

#### ○主な施策

- ① ~~防災拠点施設からの距離が遠く~~、豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。
- ② 地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織、持続可能な地域運営組織の育成とを支援し、あわせて、活動拠点となるコミュニティ施設など活動拠点の整備を推進します。また、交流事業や地域資源を活用した関係人口の拡大と人材育成を推進します。
- ③ 学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。

- ④ ~~除雪支援など~~、雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。
- ⑤ ~~高齢者の自立促進と健康寿命の延伸のため~~、近隣住民によるの協力や地域支え合いの仕組みづくりや、医療機関、関連福祉団体等関係機関との連携やによる地域資源を活用した事業など包括的な取組みを通して、地域住民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるため、高齢者地域福祉支援体制の充実を図ります。
- ⑥ 豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。~~また、交流事業などを通じた関係人口の拡大と人材育成を推進します。~~
- ⑦ 中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供と、地域デジタル人材の育成を進めます。

## イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

### ○施策の方向

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品の販売支援、特産品の開発、既存商品の価値向上に取り組むとともに、農地保全のための仕組みづくり地域組織活動への支援などを通して、中山間地型の複合経営農村集落機能の維持をめざします。また、広大な森林資源を活用した菌茸など特用林産物の生産支援などを行い、山林の荒廃防止と資源循環をめざします。

### ○主な施策

- ① 出荷手段を持たない高齢者などへの支援により生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、朝日地域の特産である山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワイン、山菜、朝日産そばなど、地域内農産物の生産振興や新たな特産品等開発と販売への支援、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。あわせて、鳥獣被害防止対策の取組を推進します。地域農業の担い手となる若者農業者等の育成・強化を図ります。
- ② 地域の共同活動による農用地、水路、農道など適切な保全管理や持続可能な地域組織活動への支援を通して、農村集落機能の維持をめざします。あわせて、鳥獣被害防止対策への支援強化の取組を推進します。

~~本材、薪炭などの活用を推進します。また、菌茸などの栽培研究や技術研究などを進めることにより販売量の確保や生産者の育成を図り、特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じて、間伐材等の木材の活用を促し、山林の荒廃防止対策を推進します。~~

## ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

### ○施策の方向

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。また、観光団体等との連携を強化し、地域にある自然や歴史文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通して地域資源の高付加価値化を進め、地域の活性化につながる観光振興をめざします。

### ○主な施策

- ① 通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた、通年型観光による誘客を図るための計画的な環境整備を推進するとともに、拠点施設におけるインフォメーション機能の整備やガイド、インストラクターなどの人材育成を支援します。
- ② 日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道や、大鳥池や以東岳などの自然をはじめとする朝日連峰の豊かな自然環境、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化などを観光資源としての複合的な活用を進めるとともに、近隣地域との連携により地域資源の魅力を高めて交流人口の拡大を図ります。あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。

総合計画

小項目

主な施策

※朱書きは前期より見直し、新規項目

地域振興計画

基本方針

主な施策

具体的な施策

具体的な事業・取組

朝日地域

ア 中山間地域における定住環境の支援





# 朝日地域 地域振興施策の全体像 (案)

総合計画

小項目

主な施策

※朱書きは前期より見直し、新規項目

地域振興計画

基本方針

主な施策

具体的な施策

具体的な事業・取組

朝日地域

イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

①地域特性を活かした農産物、特用林産物の持続的な生産環境づくり支援、加工品等の販売拡大、担い手育成

②農地・山林等の保全による農林業の生産活動と農村集落機能の維持

①自然を活用したアクティビティと観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客推進

②観光団体等との連携による自然や歴史文化、食の魅力などの地域資源の高付加価値化の推進

出荷手段を持たない高齢者などへ支援により、生産意欲を喚起し生産量を拡大

特産の山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワイン、山菜、朝日産そばなど、地域内農産物の生産振興支援

特産品等の開発と販売への支援、交流などによる販路拡大

地域農業の担い手等の育成強化

地域の共同活動による農用地、水路、農道など適切な保全管理や、持続可能な地域組織活動への支援

鳥獣被害防止対策への支援強化

特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じた間伐材の活用促進による山林荒廃防止対策の推進

通年型観光拠点施設(湯殿山スキー場、あさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物館)など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた誘客を図るための計画的な整備推進

通年型観光拠点施設におけるインフォメーション機能の整備、ガイド等の人材育成支援

湯殿山や六十里越街道、大鳥池や以東岳をはじめとする朝日連峰の自然環境、歴史、生活様式、食文化など観光資源の複合的な活用の推進

近隣地域(西川町、楡引地域など)との連携による地域資源の魅力向上と交流人口の拡大

観光団体等と連携した情報発信の強化、受入体制の整備

産直あさひ・グーによる地域内での特用林産物・農産物の集荷  
森の産直カーによる市街地への特用林産物・農産物の移動販売

山ぶどうを原料とした月山ワイン消費拡大に繋がる「月山ワインまつり」開催支援  
朝日産そば消費拡大イベント開催、商品開発・PR活動  
山菜・きのご栽培研修会の開催  
地域農産物のふるさと納税への登録促進

販売を目的とした特産品創出・付加価値向上・省力化による生産維持への補助  
墨田区との交流事業を通じた農産物等の販路拡大

若者農業者の交流機会設定、研修会開催、地域特産物等に対する販売意識向上

国事業を活用した水路、農道等の維持管理活動を行う組織の事務受託体制づくり  
中山間地域等直接支払交付金事業の取組支援  
多面的機能支払交付金事業の取組支援

鳥獣侵入通知システム構築のための実証実験への協力  
鳥獣被害対策(電気柵購入補助、追払い活動・研修へ支援、巡回調査実施等)

市民を対象としたきこの植菌体験などを通じた生産者の育成  
操作初心者等地域内住民を対象としたチェーンソー講習の実施  
特用林産物の集荷、移動販売への支援  
森林資源を活かした特産品の創出・省力化による生産維持への補助  
山菜・きのご栽培研修会の開催

湯殿山スキー場、あさひ家族キャンプ村の適正な維持管理と計画的な施設整備  
道の駅「月山」あさひ博物館の適正な維持管理と計画的な施設整備  
市観光施設の計画的な修繕、施設整備

SNS活用による情報発信、インバウンド誘客体制の整備  
六十里越街道の魅力発信(街道ガイド育成支援、パンフレット作成など)  
あさひむら観光協会と連携したインフォメーション機能の向上

六十里越街道の魅力発信(地域の若者を対象にした古道歩きイベントなど)  
アルゴディア研究会の活動支援(街道整備保全、街道活用イベント)  
四季を通じた自然体験イベント開催(タキタロウまつり・月山あさひ雪まつり)  
地域独自の食文化体験イベント開催と情報発信の強化

六十里越街道を軸とした鶴岡市・西川町・県・国・街道関係団体との広域連携  
鶴岡市南部エリア広域観光圏の観光資源を活用した周遊ルート造成と情報発信

朝日連峰を始めとした登山客の二次交通確保  
快適で安全な登山環境の維持・改修整備(登山道・避難小屋・登山トイレ)  
アルゴディア研究会の活動支援(街道整備・保全、街道を活用したイベント開催)  
SNS活用による情報発信、インバウンド誘客体制の整備  
観光人材育成の支援(六十里越街道ガイド、観光協会職員)  
桧原二ノ俣峠越山道復元事業の支援

令和5年度 朝日地域まちづくり未来事業 取組状況

資料3

No	事業名	事業内容	R5予算額 (単位:千円)	事業 期間	昨年度の取組み状況	取組状況	
						実施中・実施済	今後予定
<b>1 中山間地域における定住環境の支援</b>							
1	朝日地域高等学校等生徒通学費支援事業	高校通学時にバス定期を購入する保護者への支援	1,500	R1~	○保護者等の費用負担軽減により、市内高校生の通学費負担の平準化を図った。 ○バス路線維持のための利用拡大を促進した。 (R4支援件数:12件、12人)	○申請手続きに、保護者のマイナンバーカードを使ったLINEでの補助金申請、e-私書箱を通した決定通知の受け取りができるデジタル化を導入	○朝日中学校3年生及び保護者に対して制度案内チラシを配布予定 ○補助金交付決定、交付
2	朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業	若者が集い語らい、交流活動を通して行う地域・人づくりを支援	178	R4~	○地域の若者で構成されたチームWaGeSho(ワゲショ:R3結成 R5.4月時点の会員34名)による自主事業開催や朝日地域共創プロジェクトへの参加などを支援した。(自主事業:冬期間のイルミネーション設置、公益大と合同研修等) ○若者同士のネットワーク形成を通じた人材育成の環境づくりに取り組んだ。	○チームWaGeSho(ワゲショ)が行う朝日地域の資源を活かした事業の取組を支援(予算の伴わない支援) ・大鳥池登山・六十里越街道トレッキング(観光PR動画製作)・月山あさひサンチュアパークでのサウナイベント等	○チームWaGeSho(ワゲショ)が行う定期的なチーム会議への取組を支援 ・東北公益文科大学の武田教授や大学生との地域づくりに向けた会議の開催、 ・朝日地域共創プロジェクトで取組む朝日中学校での語り合い開催への協力
3	「交流の里おおあみ」づくり支援事業	地域住民主体による持続可能な地域運営ための実践活動への支援	500	R3~	○大網地区地域交流センターを拠点に、朝日東部地区自治振興会が地域課題解決に向けて実施した、月山筍の収穫・畑整備体験や大網の魅力発信などの取組に支援した。	○大網地区地域交流センターを拠点に、朝日東部地区自治振興会が主体となり、地域課題を解決するための試行的な取組へ支援(月山筍収穫体験や六十里越街道トレッキング等) ○補助金交付決定、交付	○引き続き、地域課題を解決するための試行的な取組への支援(月山筍の畑整備体験等)
4	朝日地域共創プロジェクト支援事業	地域課題解決のため自治振興会が取組む事業を支えるデジタル人材育成、講習会実施へ支援	260	R5~		○朝日中央地区自治振興会が主体となり、地域でのデジタル人材育成に向けた打合せ実施 ○補助金交付決定、交付	○朝日中央地区自治振興会で以下事業を実施 ・地域住民対象のデジタル人材育成の研修 ・地域住民対象のスマホ教室
5	朝日地域地域内交通調査研究事業	地域住民の意向を反映した需要に合わせた地域内生活交通のあり方の調査研究へ支援	250	R5~		○市営バス利用拡大協議会が主体となり、8月に地域内交通研究会を立ち上げ、外部講師を招いて今後の進め方等を協議した。 ○移動実態調査を実施中 朝日地域全戸・バス利用者へのアンケート調査、地域でのお茶のみサロン等の集いや会議、民生児童委員への聞き取り ○補助金交付決定、交付	○移動実態の調査結果をもとに研究会を開催し、地域交通のあり方を検討 ○地域住民を対象に他自治体での先事例等を学ぶ研修会を開催
6	朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業	広域コミュニティ組織が除雪機所有者と自力除雪が困難な高齢者世帯等をグループ化し、玄関前除雪を行った費用への支援	330	R1~	○支援実績:朝日南部・東部地区 合計5グループ・11世帯	-	○冬期に向け広域コミュニティ組織と事業実施等打合せ実施 ○補助金交付決定・交付
7	大鳥自然の家環境整備事業	環境教育プログラムの開発	380	R1~	○地域資源を活かした環境教育プログラムとして、ナメコの菌植えや収穫体験のプログラムを開発した。	○大鳥地域の自然を活かした環境教育プログラムの開発を大鳥自然の家施設管理者へ委託(プログラム内容:ナイトウォーク環境整備)	○12月完了
8	朝日地域健康増進支援事業(かたくり温泉源泉活用介護予防・健康増進事業)	地域住民の介護予防と健康増進を図るため、温泉入浴を活用した地域住民主体の実施団体を確立	4,000	R1~	○地元住民を中心に組織された運営団体「かたくり温泉ぼんぼ管理運営組合」に光熱水費相当分を支援した。 ○コロナ禍による利用者数減少等の影響を受け令和4年11月末で温泉営業終了となったが、営業終了後も介護予防事業と源泉を含む温泉施設管理を継続して実施した。	○健康寿命の延伸と介護予防・健康増進を目的とした住民組織「いきいきぼんぼの会」へ温泉入浴を組み合わせた介護予防事業と源泉管理を委託	○専門資格等を有する指導者による介護予防事業の実践指導を実施し、介護予防活動を継続するための担い手となる組織育成
9	朝日地域健康増進施設支援事業(かたくり温泉利活用トライアル事業)	温泉を活用した事業化の実現可能性を検証するため、期間を区切った形での事業の試行(トライアル)の実施へ支援	1,890	R5		○7月トライアル実施事業者を選定 ○8月11日~11月10日までの3ヶ月間において、実施事業者によるトライアル事業を実施 ○実施事業者に対して温泉入浴事業にかかる水道光熱費及び燃料費相当額を支援 ○補助金交付決定、交付	○次年度、温泉入浴事業等を実施する民間事業者の選定に向けた利活用の内容、期間など公募条件の整理・検討

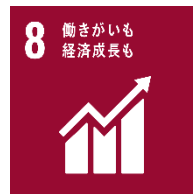


No	事業名	事業内容	R5予算額 (単位:千円)	事業 期間	昨年度の取組み状況	取 組 状 況	
						実施中・実施済	今後予定
<b>2 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興</b>							
10	朝日地域若者農業者支援事業	若者農業者の交流を支援し、農業・農村を支える人材を育成	373	R4~	○地域農業の担い手として意識の共有を図るため、若者農業者によるグループワークや研修会などを実施した。 ○地域特産物・農産物の魅力の再発掘や販売意識の向上を目指し、農業者が主体的に取り組める環境づくりに取り組んだ。	○地域内へチラシ配布、市ホームページ掲載によりメンバー募集を実施(メンバー:14名 随時募集) ○交流の場設定、意識共有による連帯感構築・ほ場視察を含めたグループワークを7月から月1回実施	○若者が主体となる農業活動に向けた支援・勉強会、研修の実施 ○地域特産物、農産物の魅力の再発掘と販売意識の向上 ・首都圏消費地視察、特産品紹介、ふるさと納税出品検討
11	朝日地域山の恵み産地化事業	団体が行う販売目的の特産品収穫出荷等への支援 特産品の創出、生産維持・拡大等の取組への支援	1,700	R1~	【山の恵み産地化事業】 ○あさひ村直売施設管理運営組合が行う山間部の生産者の出荷促進、地元のほか市街地での店舗販売や移動販売、講座開催など生産技術向上の取組みを支援した。  【あさひの特産応援事業】(支援実績:1件) ○農産物等を活かした特産品の販売、ふるさと納税返礼品の登録に向けた付加価値の向上、省力化による生産維持等の取組みに支援した。	【山の恵み産地化事業】 ○産直あさひ・ゲーが行う農産物等の集荷・販売、市街地での移動販売(森の産直カー)への補助を実施  【あさひの特産応援事業】 ○6月に申込団体を公募(チラシ全戸配布、市ホームページ掲載) ○7月に1件応募があり採択	【山の恵み産地化事業】 ○産直あさひ・ゲーが行う農産物等の集荷・販売、市街地での移動販売(森の産直カー)への補助を実施 ○産直あさひ・ゲーが行う山菜等栽培研修会開催へ支援  【あさひの特産応援事業】 ○9月に二次募集を開始
<b>3 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興</b>							
12	朝日地域観光あいのりタクシー運行事業	登山・観光シーズン中の二次交通確保の取組	1,400	R4~	○朝日連峰登山客を対象にタクシーの相乗り制度を活用した事業を予定していたが、豪雪被害による吊り橋破損や大雨被害による市道通行止に伴い、実施には至らなかった。	○朝日連峰登山客の二次交通確保を目的に、あさひむら観光協会へ補助し、7月28日より観光あいのりタクシーを運行開始 (R5.10.1現在:延べ利用者36名、便数16便) ○補助金交付決定	○観光あいのりタクシーは10月15日まで運行予定 ○補助金交付
13	六十里越街道魅力発信事業	街道整備を担う人材育成及び街道ガイドマニュアル等整備への支援	118	R4~	○六十里越街道の魅力を効果的に発信した誘客環境を整備するため、あさひむら観光協会ホームページの拡充や、街道案内人の山船頭人の育成に向けたガイドマニュアルの作成に取り組んだ。	○地域の若者世代を対象にした古道歩きイベント開催(12名参加)SNSによる情報発信への展開への準備作業実施 ○補助金交付決定、補助金交付	○街道ガイド(山船頭人)育成に向けたマニュアル整備
14	桧原二ノ俣峠越山道復元事業	登山道利用を目指し、関係団体へ刈払い、看板設置等への支援	100	R4~	○登山道復元による観光資源としての活用を目指し、桧原二ノ俣峠越山道復元協議会で草刈り等環境整備を実施した。	○桧原二ノ俣峠越山道復元協議会へ補助金交付決定	○同協議会で草刈り作業を実施 ○補助金交付
15	朝日地域国有林活用事業	国有地利活用のための用地測量	1,545	R5		○国有林内の大鳥池避難小屋周辺敷地の借受に向けた測量実施	○成果品取りまとめ



# 鶴岡市 中心市街地将来ビジョン

## 朝日地域振興懇談会資料



令和5年10月12日

鶴岡市

## 資料一覧

資料 1 ビジョン策定の概要

資料 2 都市機能誘導区域

- ・ 中心市街地活性化基本計画区域図

資料 3 多極ネットワーク型まちづくり

資料 4 中心市街地将来ビジョン骨子案（たたき台）

## 1. ビジョン策定の背景

- 本市中心市街地は、都市の中核機能を郊外地に移転・分散させることなく都市機能の集積が図られ、本市全体の発展を牽引しているエリアとなっている。
- 近年、高齢化社会、環境負荷低減、ウイズコロナなどの時代の変化に伴い、新しい質の高い暮らしの提案（ニューノーマル）（クオリティ・オブ・ライフ）が求められている。また、まちのメインストリートには、人と人との交流、まちなか散策、都市的な雰囲気や街なみの景色など「ワクワクする経験や体験」を楽しむことが期待されている。
- 今後、都市の魅力を高めていくためにも、市民・事業者・行政が「まちづくりのビジョン」の共通認識を持って、連携して取り組むことが重要。
- 国においても都市の魅力づくりと民間活力の活用を推進しており、支える制度も充実している。

中心市街地の**中長期的なまちづくりの  
ランドデザイン**として

**「中心市街地将来ビジョン」**

を策定【令和5年度】



3

## 2. ビジョン策定の目的

資料 1

- ◆ 中心市街地の「ありたいまちの将来の姿」を、市民・事業者・行政が共通認識を持って、その実現に向けて連携して課題達成に取り組むことで、賑わいのある、持続可能なまちづくりを進める。
- ◆ 広い市域を有する本市において、中心市街地・地域拠点・小さな拠点のあり方を整理し、公共交通ネットワークで結ぶ「多極ネットワーク型まちづくり」を推進するための考え方を共有する。



賑わう鶴岡公園二の丸広場

ビジョンを実現する**5年間のアクションプラン**として

**「中心市街地活性化基本計画(第3期)」**

を策定【令和6年度】

## 3. ビジョンの位置付け

### 鶴岡市総合計画（H31年度～10年度：10年間）

趣旨：誰もがいきいきと暮らし続けることができるまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくための指針  
構成：基本構想・基本計画（分野別）

### 中心市街地将来ビジョン（令和5年度策定予定）

趣旨：総合計画の分野別の内容（点）を中心市街地（面）に落とし込み関連付けて「**ありたいまちの将来の姿**」を具体的に整理  
構成：現状分析、課題整理、中心市街地のテーマ、コンセプト、想定される導入機能、事業方針、等を想定  
体制：市・商工会議所が事務局となり、外部委員による策定委員会を設置  
⇒ 市民・事業者・行政が共通認識を持ち連携して課題解決に取り組むことで、持続可能なまちづくりを推進  
⇒ 中心市街地の懸案事項への応答、公共投資の優先順位付け、民間投資の促進策などにより、まちの課題解決を図る  
⇒ **公共施設整備、地域公共交通の強化、建築物の高さ制限のあり方、市街地観光の充実などの諸課題について対話を重ね、方向性を示す**

### 第3期中心市街地活性化基本計画（令和6年度策定予定）

趣旨：5年間のアクションプラン（実施計画）として、実現可能性が見込まれ、優先順位が高い施策について集中的に取り組む  
構成：活性化の目標、事業に関する事項、事業実施箇所、事業推進に関する事項、等を想定  
⇒ **計画内容について内閣府の認定が必要。事業進捗・成果指標の達成度合いを毎年度確認**

### 事業の実施

市民・事業者・行政が共通認識を持って、最適な役割分担の下、各事業（ハード・ソフト）を展開

## 4. ビジョンの検討体制

### 市民対話

#### 市民ワークショップ<sup>o</sup>（6月～7月予定）

- ・中学生以上を対象に、6つの属性区分で実施（学生、園児児童等保護者、商店街・まちづくり会社・コメン・町内会等、医療福祉関係者、芸術文化関係者、在住外国人）
- ・結果を公表し、さらに広く意見を募集

⇒ **ビジョンの「テーマ・コンセプト」に反映**

#### 民間事業者ヒアリング（5月～8月予定）

- ・商工会議所会員企業、各種団体・協会、まちづくり会社、市外デベロッパー等を対象に、今後のまちのあり方や民間投資が進む環境づくりについて意見交換

⇒ **ビジョンの「想定される導入機能・事業方針」に反映**

#### ビジョン中間案の展示（12月ごろ予定）

- ・ビジョン中間案を公表・展示し、さらに広く意見を募集

市民対話の結果を反映

### 会議等

#### ビジョン・中活計画策定委員会（外部委員）

ビジョン・中活計画検討会議（市・商工会議所）



## 都市機能誘導区域・中心市街地活性化基本計画区域図

北部生活拠点 (茅原北地区 35.5ha)  
(北部サイエンスパーク地区 6ha)

市街化区域境  
(1,717.3ha)

市街化区域  
(1,717.3ha)

居住誘導区域  
(923.0ha)

・中心住宅地 400.7ha  
・新興住宅地 479.5ha  
・北部生活拠点 41.5ha  
・鶴岡駅北側 1.3ha

中心市街地拠点 (150.0ha) = 中心市街地活性化基本計画区域

都市機能誘導区域  
(191.5ha)

・中心市街地拠点 150.0ha  
・北部生活拠点 41.5ha

## 【居住誘導区域の範囲】 923.0ha

①中心住宅地と新興住宅地の範囲 881.5ha

〔中心住宅地〕

本町二丁目、三和町、睦町、三光町、本町一丁目、昭和町、大東町、神明町、錦町、上畑町、山王町、泉町、若葉町、家中新町、馬場町、本町三丁目、日吉町、末広町、宝町、鳥居町、新海町

〔新興住宅地〕

双葉町、文園町、千石町、長者町、苗津町、日出一丁目、日出二丁目、新形町、東新斎町、陽光町、青柳町、美原町、稲生一丁目、稲生二丁目、道形町、大宝寺町、切添町(家屋倒壊等氾濫想定区域を除く)、みどり町、大西町、西新斎町

〔鶴岡駅北側〕

宝田一丁目 (1街区の一部、2街区)

②茅原北地区と北部サイエンスパーク地区の範囲 41.5ha

〔茅原北区域〕

茅原字草見鶴、茅原字中谷地、茅原町、文下字広野の各一部

〔北部バイオサイエンスパーク〕

覚岸寺字水上

## 【都市機能誘導区域の範囲】 191.5ha

①中心市街地拠点 150.0ha

本町二丁目、三和町(商業地域)、本町一丁目、昭和町(商業地域)、神明町(商業地域)、錦町(商業地域)、山王町、泉町、家中新町(10街区、17街区、18街区)、馬場町、本町三丁目(1~9街区と11~15街区の商業地域)、末広町(高度利用地区と6~13街区)、日吉町(商業地域)、宝町(商業地域)、宝田一丁目(1街区の一部、2街区)

②北部生活拠点(茅原北地区 35.5ha 北部サイエンスパーク地区 6ha) 41.5ha

〔茅原北区域〕

茅原字草見鶴、茅原字中谷地、茅原町、文下字広野の各一部

〔北部バイオサイエンスパーク〕

覚岸寺字水上

※居住誘導区域、都市機能誘導区域とは、鶴岡市立地適正化計画で定める区域です。

# 「多極ネットワーク型まちづくり」による 将来都市構造図（案）

人口減少と高齢化が進む中で、生活に関わる社会基盤をいかに、「暮らしの質の向上となるまちづくり」につなげられるか。

## 【総合計画】

### 1 暮らしと防災

- 移住者やUターン者、学生にとって住みたい町としての魅力向上

### 3 学びと交流

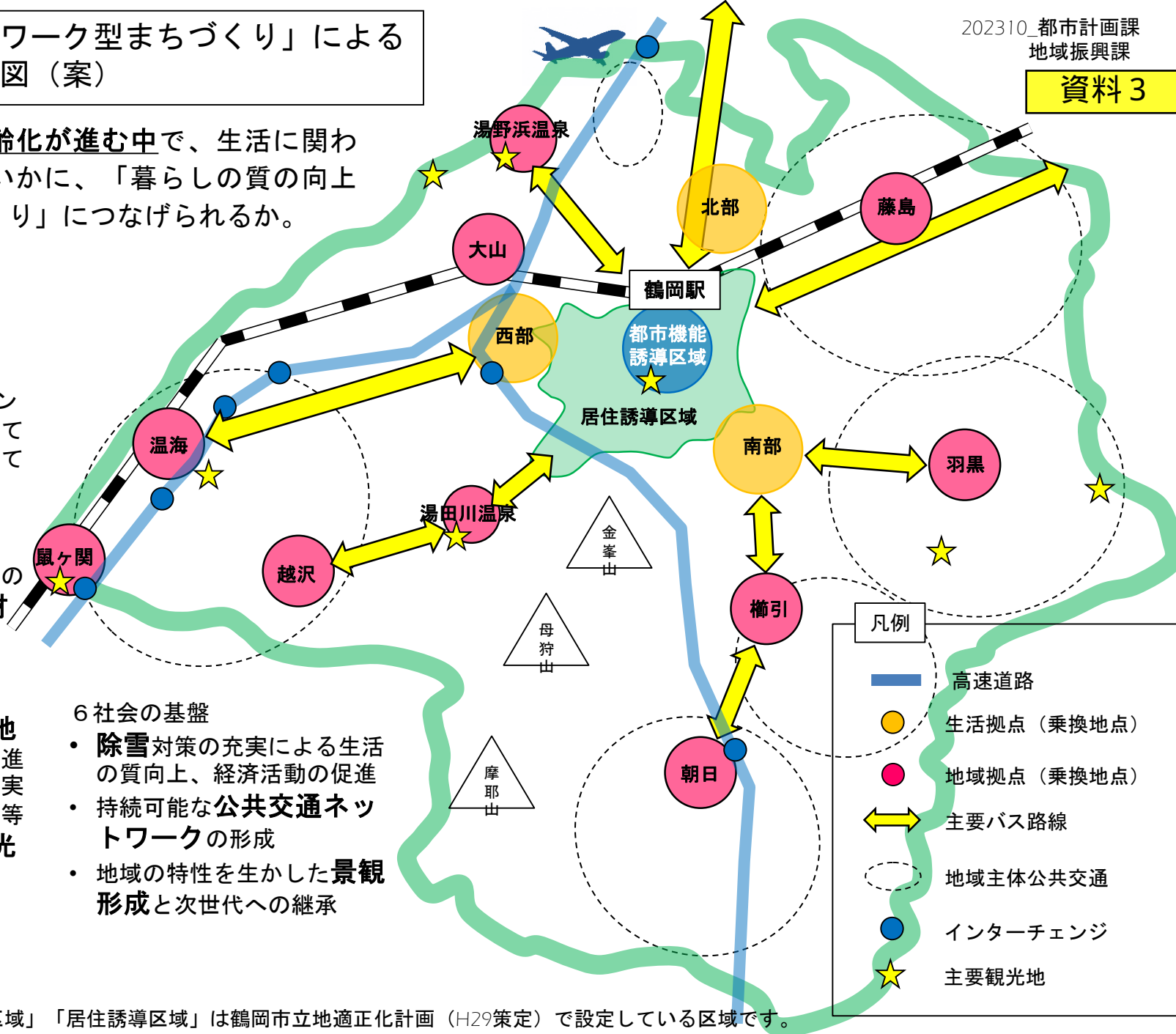
- 高等教育機関との連携による人材育成

### 5 商工と観光

- 企業の新規立地や設備投資の促進、創業環境の充実
- バス運行の充実等による市内観光の周遊促進

### 6 社会の基盤

- 除雪対策の充実による生活の質向上、経済活動の促進
- 持続可能な公共交通ネットワークの形成
- 地域の特性を生かした景観形成と次世代への継承



凡例	
	高速道路
	生活拠点（乗換地点）
	地域拠点（乗換地点）
	主要バス路線
	地域主体公共交通
	インターチェンジ
	主要観光地

※「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」は鶴岡市立地適正化計画（H29策定）で設定している区域です。



## 第1回策定委員会\_中心市街地将来ビジョン骨子案(たたき台)

## R051012\_建設部都市計画課・商工観光部商工課・鶴岡商工会議所

総合計画			ありたい姿・まちづくりの方針 (明るい未来の提示)	問題 (ありたい姿と現状との 差分)	課題 (問題解決のための取組)	導入機能【ハード】	導入機能【ソフト】
基本構想	基本計画	対策					
1 暮らしと防 災	(6) 環境の保全・ 美化活動の推 進	ウ 地域の生活環境の保全と 美化運動の推進	<p>楽しいコト(体験)とトキ(共感) に出会える城下のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 便利で快適なサービス、良好な居住環境、趣味・娯楽の機会など、多くのメリットがある。</li> <li>■ 食文化を伝える美味しい食材を使った料理やお酒を嗜む多くの店舗やイベントがある。</li> <li>■ 休日の過ごし方の選択肢として居心地の良い中心市街地におでかけしたくなる。</li> <li>■ 適度な距離を保ったコミュニティが形成する安全、安心、互恵の暮らしができる。</li> </ul>	<p>公共施設の老朽化に関して、施設更新の必要性や優先順位について明確な共通認識が不足している。</p> <p>子どもや高齢者、市民の誰もが自由に移動できる優しい社会へのニーズに対応が追いついていない。</p>	<p>市民・事業者・行政による施設更新の必要性や優先順位についての共通認識を形成し、まちの個性を生み出す具体的な施設整備が必要。</p> <p>街中ほど利便性が高い地域公共交通の再構築と安全で快適な歩行者・自転車空間の整備、交通結節点となるまとまった駐車場が必要。</p>	<p>[施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ まちの個性を生み出す公共施設整備(中心市街地への移転、複合集約化、官民連携手法)</li> <li>◆ まちなかイベント広場のリノベーション</li> <li>◆ コンテナ店舗によるチャレンジショップ群+イベント広場の整備</li> <li>◆ 学生向け・子育て世代向け集合住宅+テナントの整備</li> <li>◆ 民間施設+マンション+垂直避難可能な立体駐車場の整備</li> </ul>	<p>[仕組]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 官民出資によるエリアマネジメント法人の設立</li> <li>◇ 多言語対応の観光ガイド育成</li> <li>◇ WebサイトやSNSを活用した観光情報発信の強化</li> </ul> <p>[施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 高校生向けフリースペース、カルチャースクール等の拡充</li> <li>◇ 既存店舗や文化財・歴史的建物を活用した休憩・滞在機能の充実</li> <li>◇ 児童の遊び場機能の充実</li> <li>◇ 案内サインの多言語表記</li> </ul>
5 商工と観光	(2) 明るく元気な 地域の活力の 源となるまち の賑わいの創 出	ア 中心市街地における多様 な商業・サービス機能の立 地促進 イ 地域に根差した魅力ある 商店・商店街づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ここで暮らすことを他の人に薦めたい。</li> <li>■ お薦めしたい店や場所がたくさんある。</li> <li>■ 日用品、食料品など日々必要なものは簡単に買い求められることができ、短い距離の移動で用事が足りる。</li> <li>■ DXによってリモートワーク、趣味、学び等を快適に行うことができる施設があちこちにある。</li> <li>■ 鶴岡公園周辺の歴史的建物などを中心に、歩きながら半日くらいは十分に観光が楽しめる。</li> </ul>	<p>まちなかに暮らす大きなメリットやステータスが不足しており、活用できない空き家が増加し続けている。</p>	<p>魅力の源泉となる文化・芸術・賑わい等のイベントの推進とともに、居心地が良く多様な体験や交流の機会を支える空間整備が必要。</p> <p>元気な個店がまちを引っ張っていく新たな商業振興策が必要。</p> <p>居住地として選ばれる質の高い環境整備、良好な景観保全が必要。</p>	<p>[交通]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 市内循環バスの乗り換え拠点+テナント+立体駐車場の整備</li> <li>◆ ストリートの1車線化整備</li> <li>◆ ストリートの恒常的な歩行者天国化</li> </ul>	<p>[交通]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 市内循環バスの高頻度化、子ども無料化、電気自動車化、自動運転への移行</li> <li>◇ バス停のリノベーションによる待合快適性の改善</li> <li>◇ JRとバスとの乗り換え拠点機能の充実</li> <li>◇ 公共駐車場の一定時間以上の有料化による適正管理</li> </ul> <p>[制度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 新築、改築、改修、隣地買増し等による新規居住・継続居住に対する補助金の創設</li> <li>◇ 業種を絞った出店・開業支援補助金の創設</li> <li>◇ 通りに面した建物の形態意匠に統一感を持たせ、一貫性のある土地利用を担保するための建築協定や地区計画の導入</li> <li>◇ 高度地区の特例許可の対象拡大、手続の簡素化</li> </ul>
6 社会の基盤	(1) 快適な都市環 境の形成	ア コンパクトな市街地形成 と地域とのネットワー クの構築 イ 賑わいのある中心市街地 の形成		<p>中心市街地の名所を巡りたくなる周遊・滞在の仕掛けが少なく、気軽に休憩できる所や、インバウンド受入れ体制が不十分である。</p>	<p>中心市街地の名所や史跡などに関連したストーリーやエピソードの掘り起こしによる観光動線の魅力化と、休憩・滞在機能の拡充が必要。</p> <p>インバウンド観光客の受入れ対策の充実が必要。</p>		
	(2) 交流・連携の 推進と基盤の 整備	オ 安全・安心な市道整備と管 理 カ 公共交通ネットワークの 形成					

※導入機能については、関係者協議、施設概要・規模、事業用地、スケジュール、財源等の精査を行い、優先順位を付けて、実現可能性を高めていくことが必要。



# 中心市街地将来ビジョン骨子案(たたき台)イメージ図

令和5年10月12日 建設部都市計画課・商工観光部商工課・鶴岡商工会議所

## バスの乗り換え拠点、テナント、立体駐車場整備の例



新那覇バスターミナル-StartHome HPより



大和リース(株)HPより

## イベント広場のリノベーションの例



JR南越谷駅南口駅前広場



田原本町イベント広場/田原本町

## ストリートの歩行者天国、歩行者空間整備の例



きてきちの歩行者天国 - にいつ鉄道商店街HPより



奈良・三条通商店街-奈良経済新聞HPより



神戸市HPより



アリオ橋本 | 屋外イベント広



六本木ヒルズアリーナ

## コンテナ店舗によるチャレンジショップ群整備の例



株式会社乃村工芸社HPより



株式会社乃村工芸社HPより

## まちの個性を生み出す公共施設整備の例



二本松屋内市民プール-藤産業(株)HPより



石川県立図書館HPより

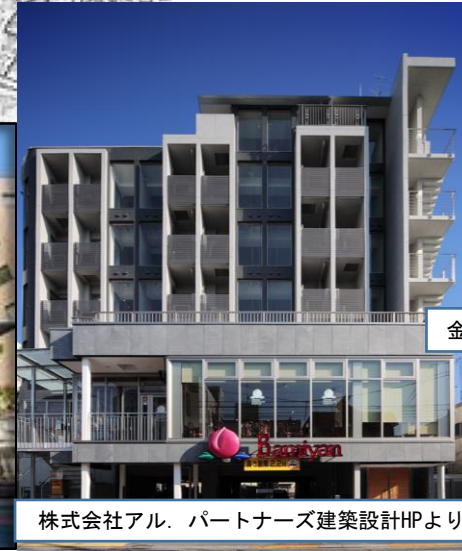


石川県立図書館整備工事-加州建設HPより

## 民間施設、学生向け・子育て世代向け集合住宅、テナントの整備の例



株式会社LIFULLHPより



株式会社アル、パートナーズ建築設計HPより



金井淵市営住宅 | 藤寿産業株式会社HPより



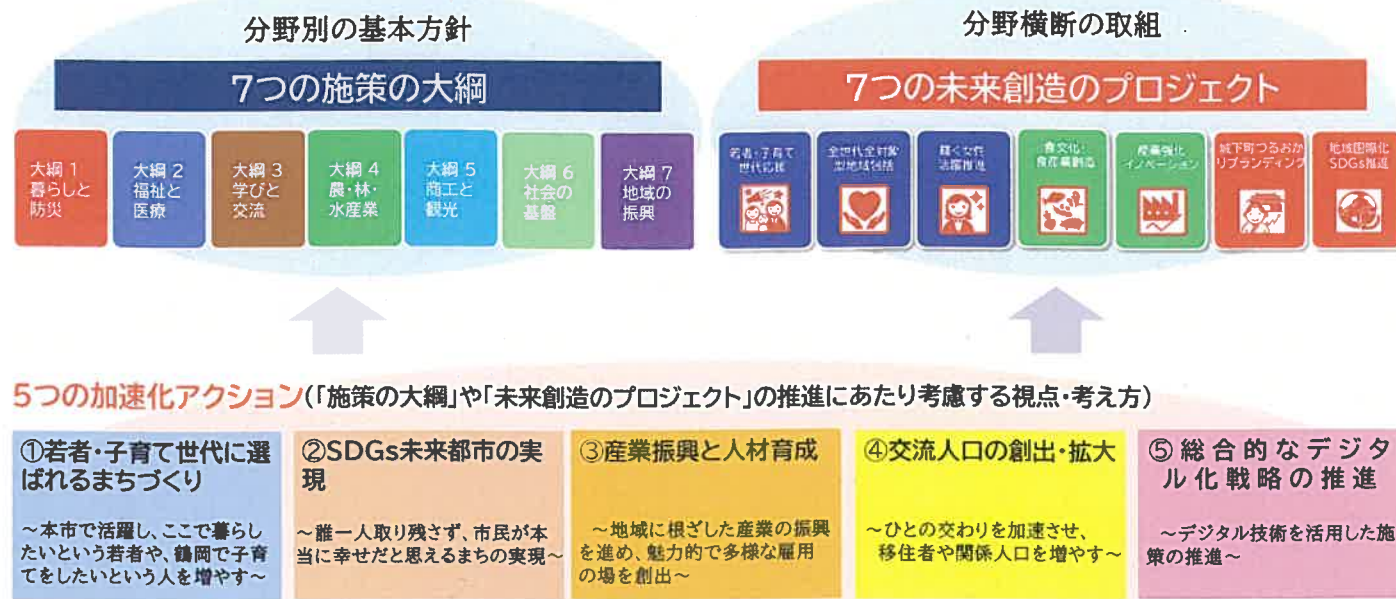


## >> 第2次鶴岡市総合計画 見直しのポイント

- ・社会経済情勢の変化や新型コロナウイルス感染症(ポストコロナ)を踏まえ、市民意識の変化や地域の実態、課題などを明確化
- ・これまでの施策の点検評価を行い、施策の方向性など総合計画審議会や専門委員会、地域振興懇談会、庁内等での議論を反映
- ・対話の場や、デジタルを活用したアンケート、参加者自らの学びや気づきに繋がるような勉強会、市民ワークショップなどにより、市民目線を重視

## 5つの加速化アクション(後期基本計画の推進に当たっての視点)

- ・現状に対応し、めざす都市像の実現のため特に重視すべき視点を設定。今後の基本的方向性を明確化
- ・「**施策の大綱**」や「**未来創造のプロジェクト**」を更に加速化して推進するため、特に重視すべき視点を「**5つの加速化アクション**」として位置づけ、施策の考え方に反映
- ・特に優先的かつ重点的に取り組むべき課題として紐づけ、関連施策を重点的・横断的に推進



## 「5つの加速化アクション」として位置づける施策・取組例

加速化アクション	施策の方向(大綱の記載箇所)	主な施策・取組例
①若者・子育て世代に選ばれるまちづくり	子どもを産み育てやすい環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5から特定不妊治療の市独自の助成事業を実施しました</li> <li>・妊婦や低年齢期の家庭を対象とした伴走型相談支援を行います</li> </ul>
	若者の地元回帰・定着の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5に子どもの医療費の無償化を18歳まで拡大しました</li> <li>・学校給食費のさらなる負担軽減を検討します</li> </ul>
	教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こどもまんなか」社会の実現に向けて、子どもへのアンケート実施、保護者からの意見聴取を基に、老朽化施設等への対応、遊び場の整備を推進します</li> </ul>
②SDGs未来都市の実現	奨学金返済支援制度などによる地元回帰・就職の促進(3(1)カ)	「つるおかエール」による経済的支援に加えて、地域との繋がりを深め、地元回帰や定着を促す取組を実施します
	「働く場所」として選ばれる地域づくり(5(3)ア)	若者地元定着・回帰促進事業、キャリア教育等を実施し、地元企業の採用力のさらなる向上を支援します
③産業振興と人材育成	適正な教育環境の整備(3(1)エ)	鶴岡型小中一貫教育基本計画を踏まえ、子どもにとって望ましい学校のあり方を調査・検討します
	読書活動の奨励・推進(3(2)オ)、給食施設の整備(3(6)イ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の整備・運営についての構想を策定します</li> <li>・新学校給食センターについて整備を進めます</li> </ul>

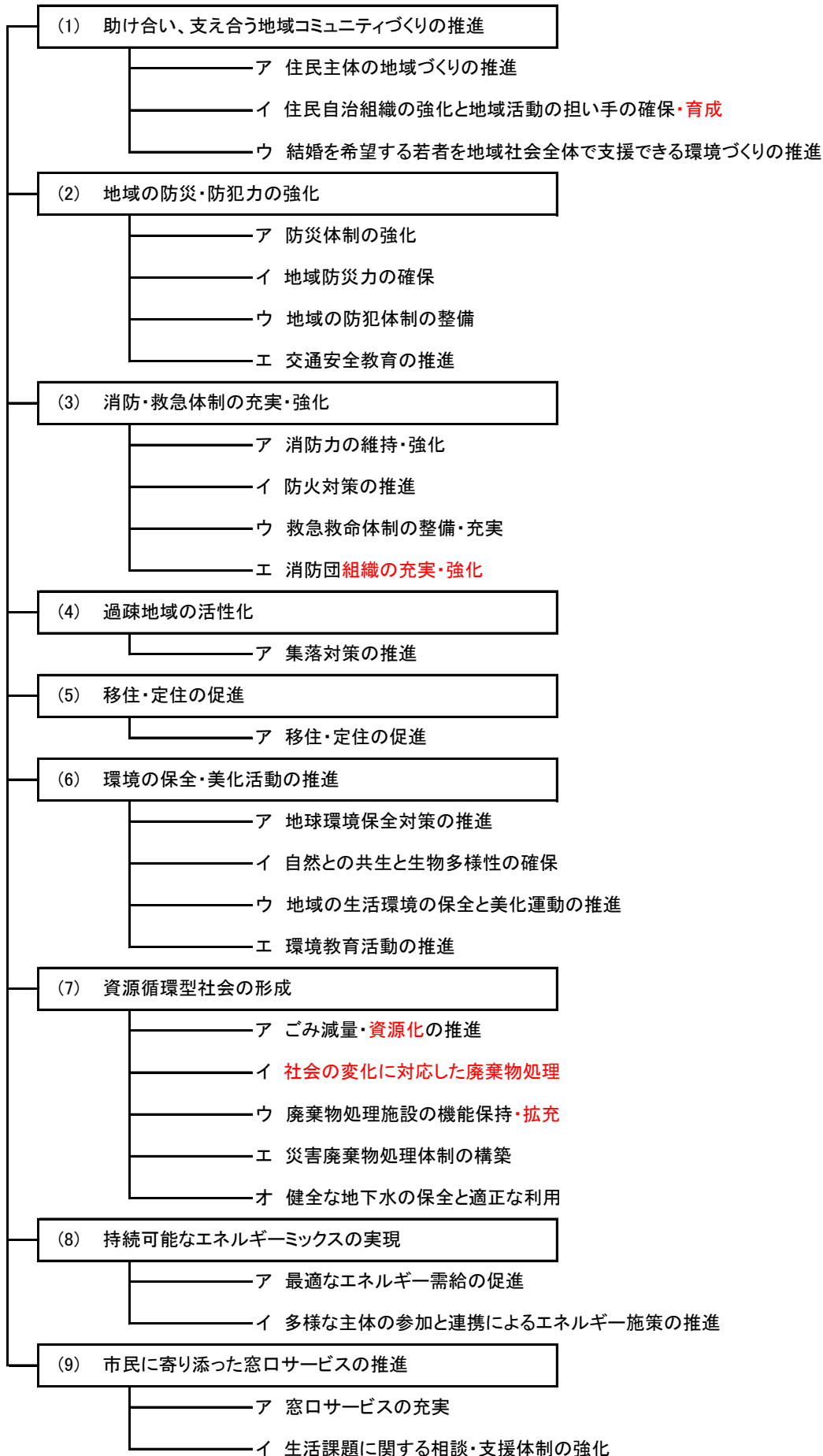
加速化アクション	施策の方向(大綱の記載箇所)	主な施策・取組例	参考資料1
②SDGs未来都市の実現	誰もが安心して暮らせる包括的支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な地域医療提供体制の確保(2(6)ア)</li> <li>住民の参画と協働による誰もが支え合う地域共生社会の実現(2(3)ア)</li> <li>障害者の地域生活支援の環境整備と医療的ケアの充実(2(4)ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療提供体制の持続・発展のため、地域医療の機能分化・連携強化を促進します</li> <li>重層的な相談支援体制を構築するとともに、災害時に自ら避難することが困難な要支援者を把握し、平時からの支え合いを推進します</li> <li>医療的ケア児及びその家族に対する支援を行います</li> </ul>
	多文化共生の推進	国際化推進プランに基づく多文化共生のまちづくりと国際化の推進(3(8)ア)	やさしい日本語を含む多言語支援、生活相談の充実と、市民が異文化を学び・触れる機会を創出します
	資源循環型社会の形成	地球温暖化対策、二酸化炭素削減目標の実現(1(6)ア)や、ごみ減量・資源化の推進(1(7)ア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策実行計画を見直し、地域ぐるみの取組を推進します</li> <li>・ごみの発生抑制と資源化を推進します</li> </ul>
③産業振興と人材育成	農業の生産拡大・所得向上と担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>域外や他業種からの新規参入者や農業を志す女性等、多様な担い手の育成・確保(4(1)ア)</li> <li>つるおかアグリプランに基づく農業産出額拡大と付加価値向上・販路拡大(4(3)ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴岡市新規就農者受入協議会及びSEADSの新規就農・地域定着機能の充実により、担い手の育成確保を推進します</li> <li>・113食文化創造都市、鶴岡産農産物の魅力を国内外に発信し、販路拡大を図ります</li> <li>・在来作物の生産を支援し、販路の確保や種の継承を図ります</li> </ul>
	中小企業支援と産業人材育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の成長力と競争力強化(5(1)ア)</li> <li>企業・事業所の立地・投資促進(5(1)イ)、起業・創業環境の充実(5(3)イ)、中小企業等の経営安定支援(5(1)エ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働力不足の解消や生産性の向上、事業の高度化などに資する取組を支援します</li> <li>・新産業団地整備を推進し、企業立地を促進します</li> <li>・創業支援体制等の強化により地域全体のビジネス力を向上させます</li> <li>・中小企業や小規模事業者の経営安定を支援します</li> </ul>
	中心市街地の活性化	中心市街地への多様な商業・サービス機能の集積促進(5(2)ア)	中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画に基づき今後のまちづくりを推進します
④交流人口の創出・拡大	戦略的な観光の展開	鶴岡ならではの魅力を活かした観光地域づくり、インバウンド誘客の推進(5(5)ア)	DEGAMの機能強化、中期観光戦略プランによりインバウンド誘客、認知度の向上を図ります
	移住・定住の促進	鶴岡ならではの魅力ある暮らしの発信等による移住・定住の促進(1(5)ア)	UIターンを希望する方の不安を軽減するため、相談業務や情報発信に関する専門職員の配置・対応により、移住・定住を促進します
⑤総合的なデジタル化戦略の推進	デジタルワンストップ	市民に寄り添った窓口サービスの推進、デジタル化によるサービス改善(1(9)ア)	マイナンバーカードを活用した各種証明のコンビニ交付やキャッシュレス決済など、窓口サービスを改善します
	ヘルスケア	デジタル技術を活用した保健指導(2(2)ア)や、子育て支援サービスの充実(2(1)ウ)	デジタルを活用した保健指導や各種子育てサービスの情報発信に努め、サービスの利用を促進します
	防災	デジタル技術を活用した防災体制の強化(1(2)ア)	緊急速報メールやスマートフォンなどのICTを活用した避難情報などを的確かつ迅速に伝達できる体制を整備します
	事務手続、業務効率化	デジタル化による事務手続の簡素化やサービスの充実(6(2)ウ)	ペーパーレス化、業務のフリーアドレス化等による効率化を促進します

第2次鶴岡市総合計画後期基本計画  
体系・施策の方向・主な施策(案)  
(企画専門委員会 第4回協議資料)

令和5年9月19日開催  
企画専門委員会 資料  
【抜粋版】

# 1 暮らしと防災

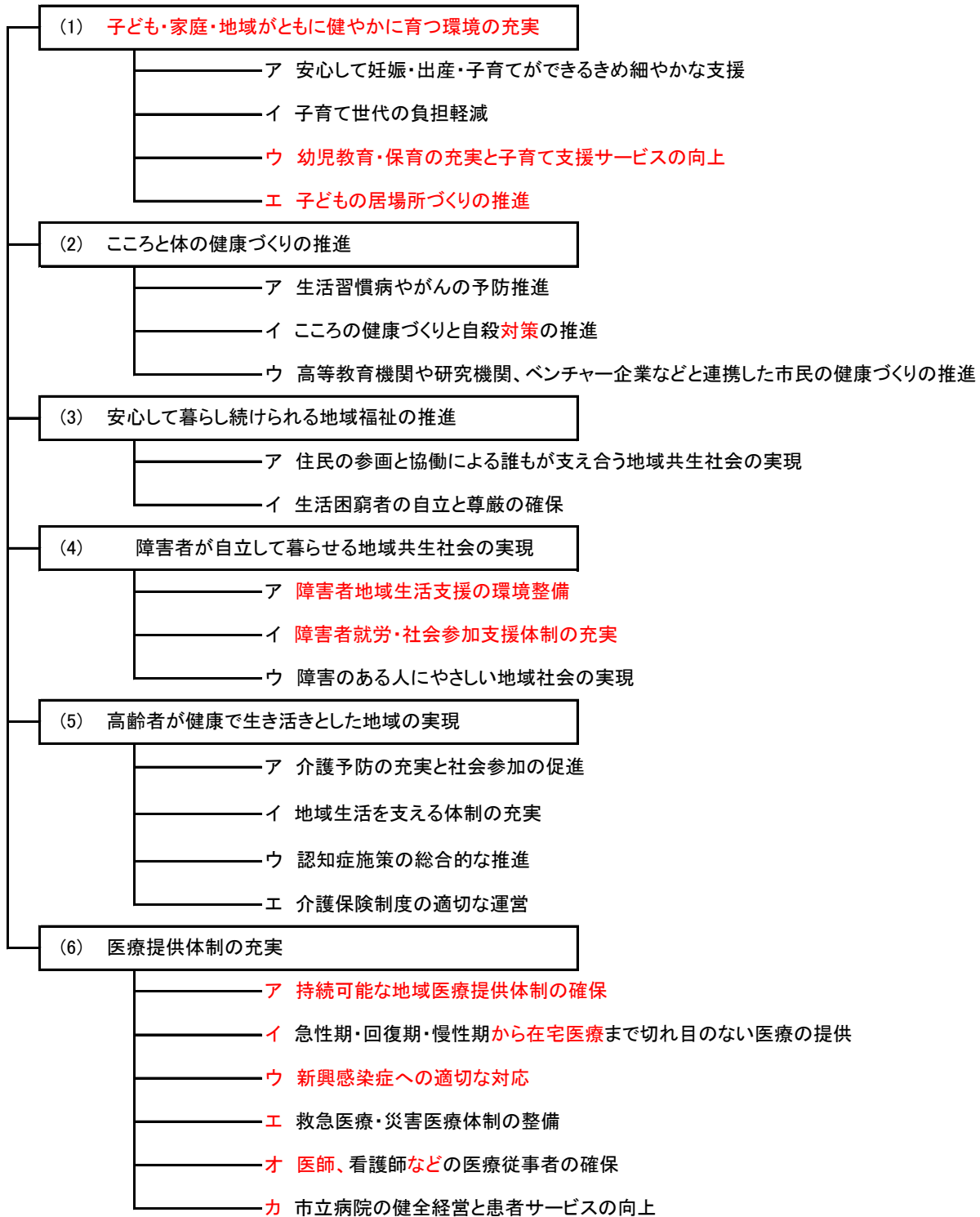
環境を保全し、一人ひとりが尊重され、心が通い合い、お互いを見守り支え合う、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを構築します





## 2 福祉と医療

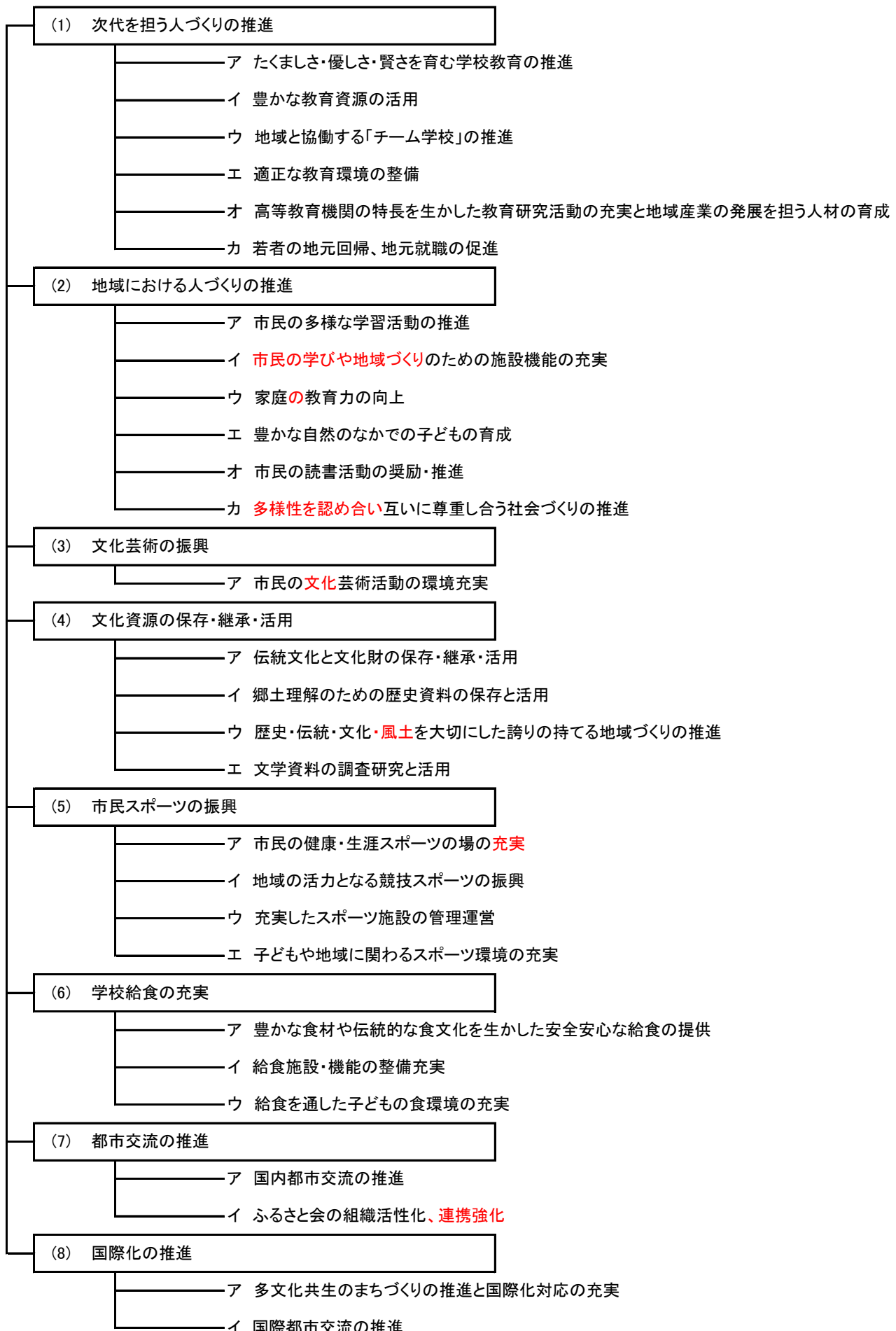
地域の福祉や医療の充実を図り、市民一人ひとりが生涯を通じて安心して健やかに暮らすことができる社会を形成します





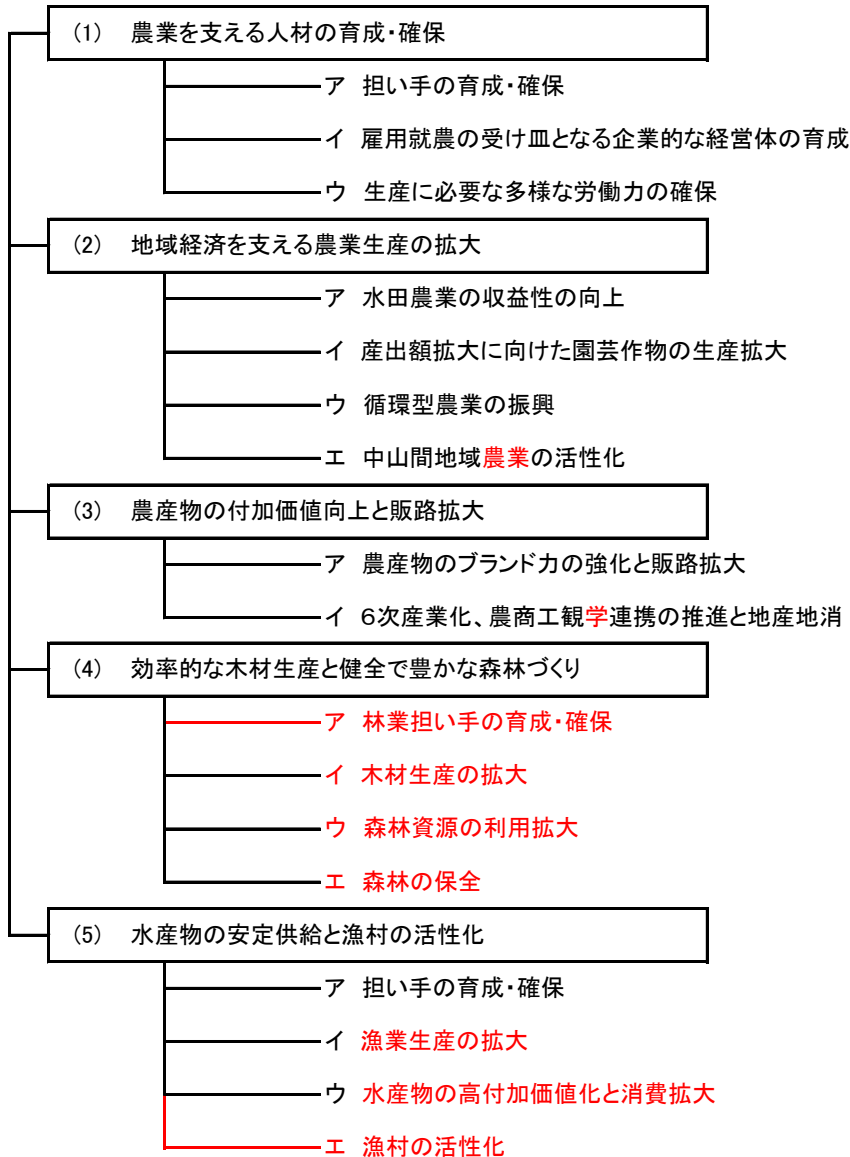
### 3 学びと交流

歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人を育て、歴史や文化でつながる交流を拡げます



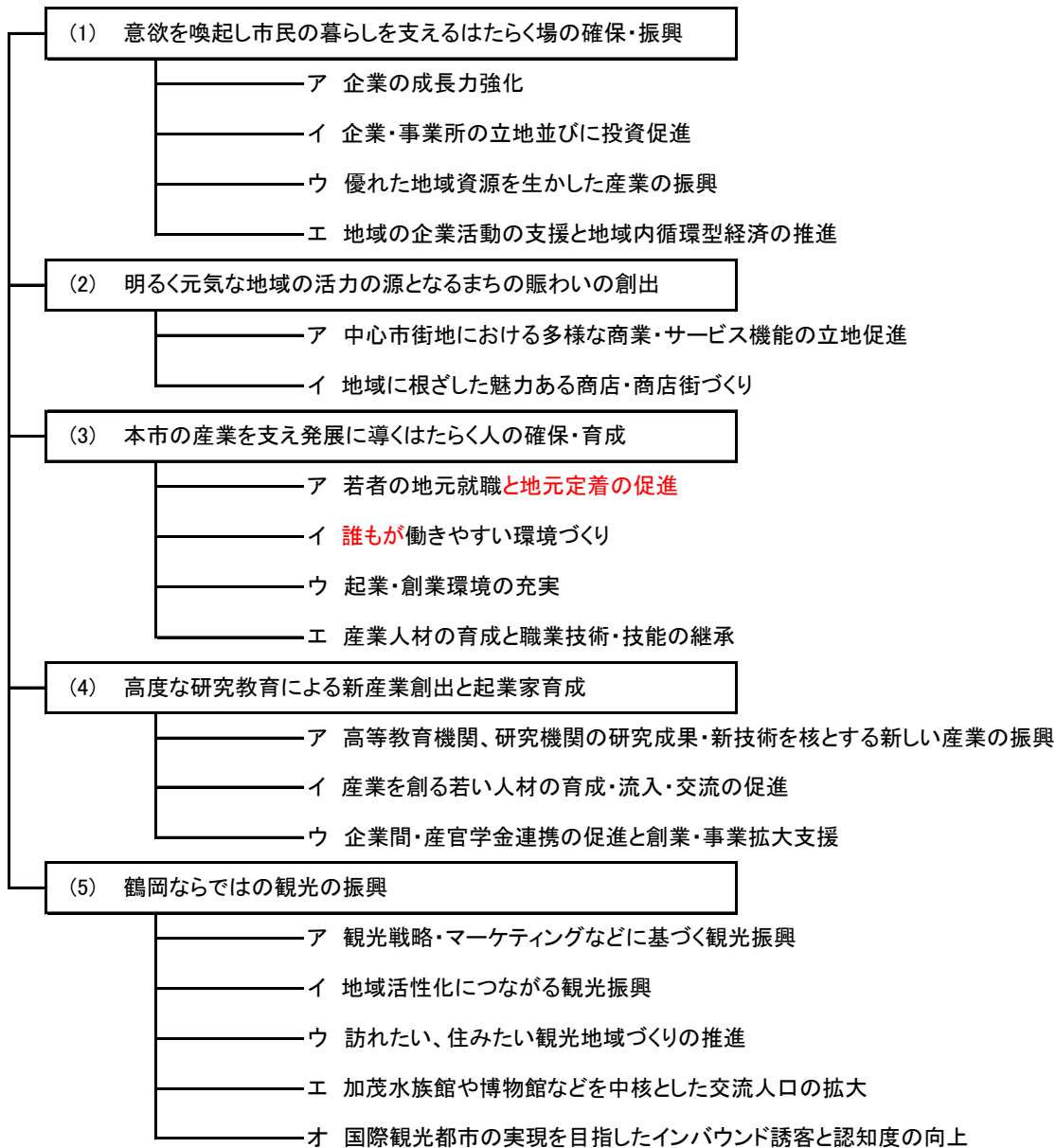
## 4 農・林・水産業

人が集い新しいことにチャレンジできる、魅力ある農山漁村を形成し、豊かな食文化を支える農林水産業の生産拡大と所得向上を実現します



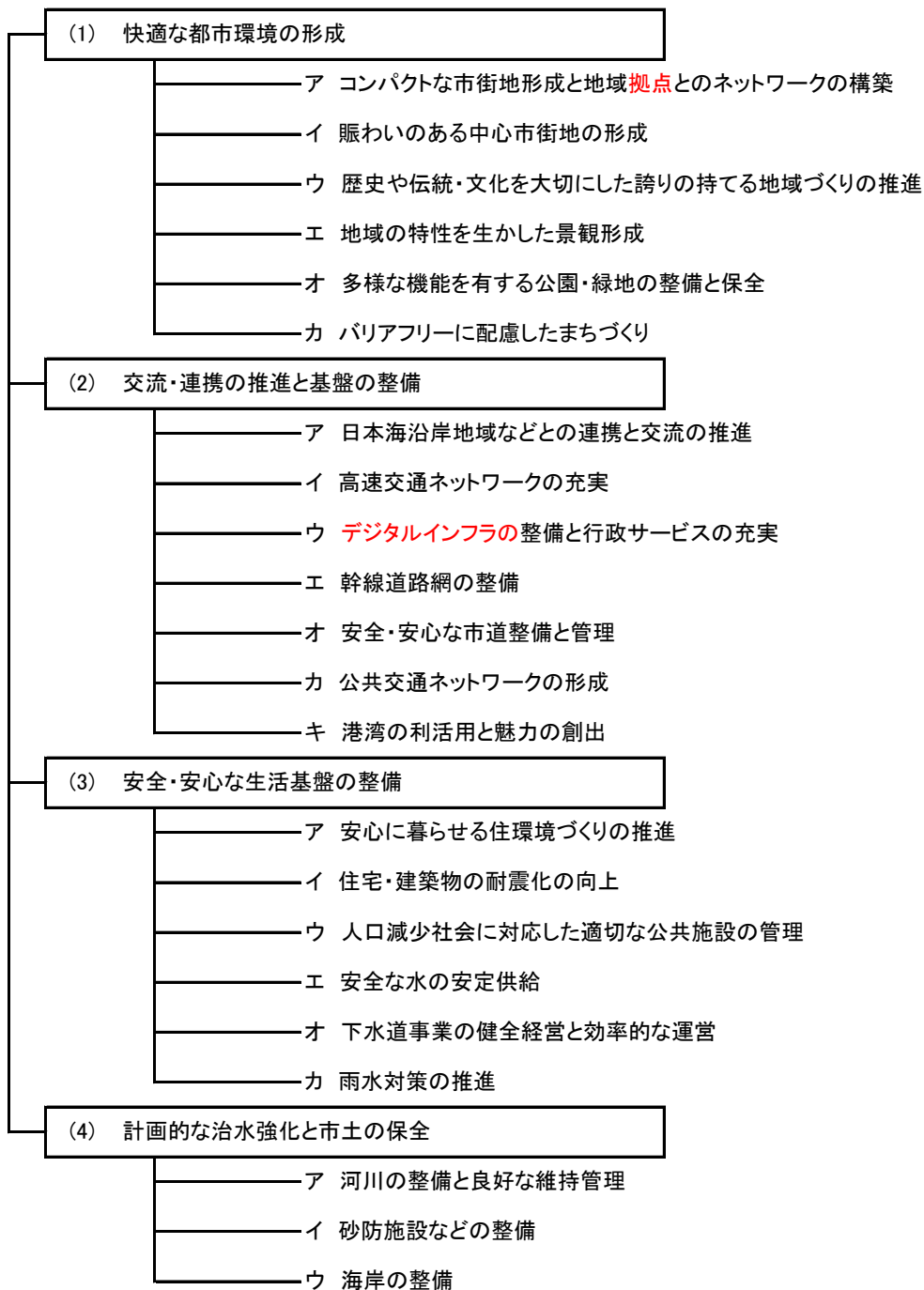
## 5 商工と観光

市民の暮らしを潤す力強い産業を振興し、人材を育てながら、国内外との往来・交流を活発化させ、多くの人を惹きつける地域をつくります



## 6 社会の基盤

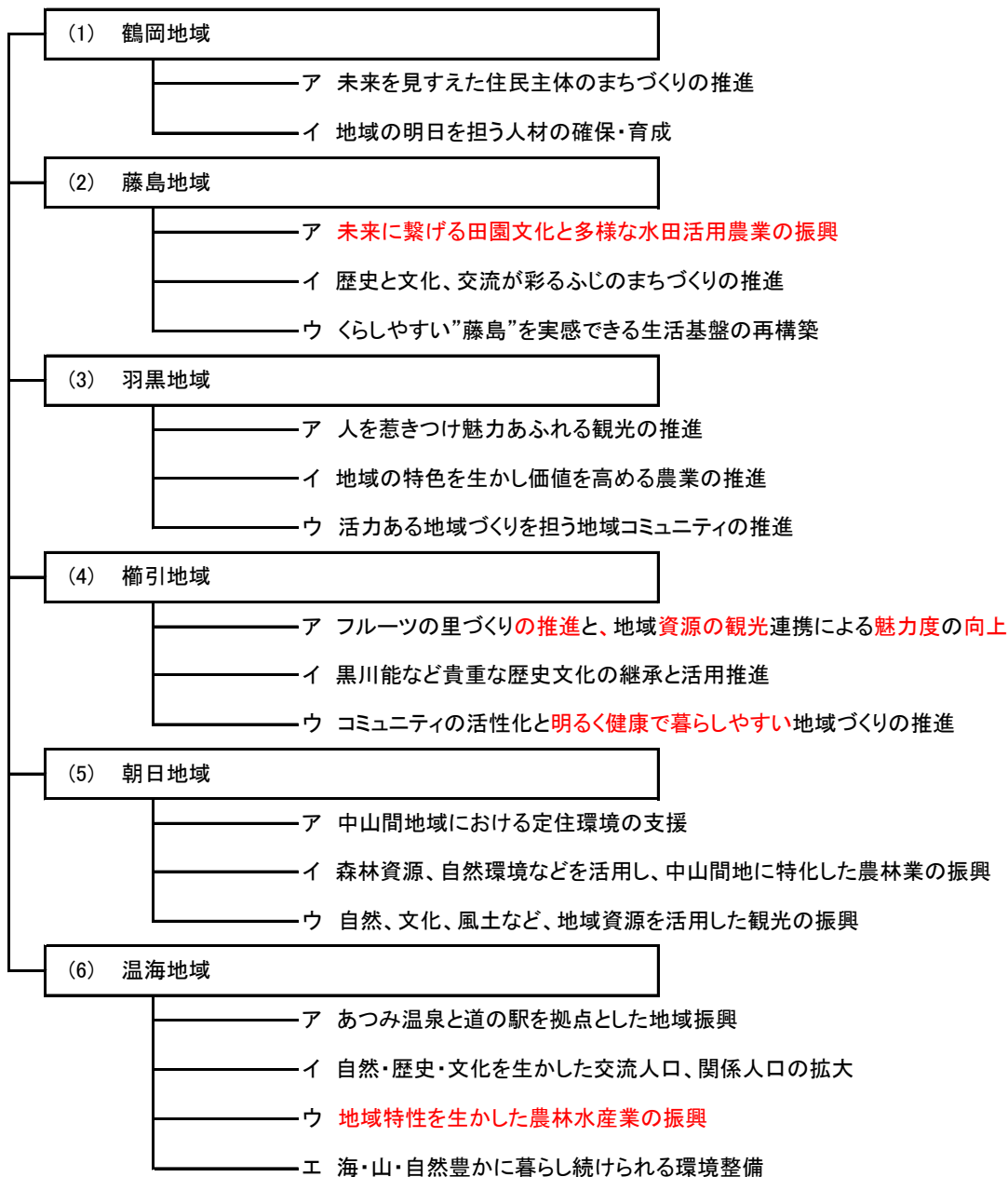
自然と都市が調和したコンパクトシティの形成を進め、交通や情報ネットワークの充実により市域内外の交流を促進しながら、誰もが安全で快適に暮らせるまちをつくります





## 7 地域の振興

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います



## 未来創造のプロジェクト

- 若者・子育て世代応援プロジェクト
- 全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト
- 食文化・食産業創造プロジェクト
- 産業強化イノベーションプロジェクト
- 城下町つるおかリブランディングプロジェクト
- 輝く女性活躍推進プロジェクト
- 地域国際化SDGs推進プロジェクト

# 第2次鶴岡市総合計画 基本計画の評価・検証

(施策の大綱7 地域の振興 (5)朝日地域)

令和5年3月17日開催

令和4年度 第2回朝日地域振興懇談会資料

【抜粋版】

# 第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証の概要

## 1 実施目的

第2次鶴岡市総合計画の進捗状況等について把握し、今後の施策の方向性を検討するための基礎資料として活用することを目的に評価・検証を実施しました。

## 2 評価・検証の視点

第2次鶴岡市総合計画の基本計画では、基本構想に基づき、各分野において行う施策の方向性や実現のための主な施策が記載されています。

それらが実現したかどうか、令和元年度から令和4年度までの取組や、基本計画の中項目単位で設定した「成果指標 (KPI)」により計画の進捗状況等について確認しました。

## 3 評価・検証の方法と枠組み

施策の大綱及び未来創造のプロジェクトについて、評価調書の作成と庁内ヒアリングを実施し、これまでの取組内容や課題、今後の方向性等について、7つの施策の大綱と7つの未来創造のプロジェクト別に概要としてとりまとめました。

## 4 本概要の形式

基本計画の中項目単位で、これまでの取組、評価等について記載。

### (1) 助け合い、支え合う地域コミュニティづくりの推進

住民自治組織が主体的に行う地域ビジョン策定や地域課題解決に向けた取組等を多面的に支援することで、組織強化・担い手の確保・育成につなげるとともに、地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを推進する。あわせて、優良事例の情報提供等を通じ、すべての住民自治組織のまちづくり意識の向上を図り、主体的な取組を促していく。

また、婚活支援では、各種事業の実施により成婚に至った件数は着実に増えており、引き続き結婚を希望する若者を後押しする。

#### (ア) 住民主体の地域づくりの推進

地域ビジョン策定や地域課題解決の取組等、住民が主体的に行うまちづくり活動に対し、アドバイザー職員の派遣やワークショップ支援、研修会の開催等により支援した。

#### (イ) 住民自治組織の強化と地域活動の担い手の確保

住民自治組織の体制整備や人材確保、まちづくり活動等を総合的に支援した。コミセン等の改修等を行い、地域活動の拠点施設としての機能維持を図る。また、コミセン等へ公衆無線 LAN 機器を設置し、リモート研修や Web 会議等が開催できるよう支援を行った。

主な施策の単位で、これまでの取組、評価等について記載。

地域ビジョンの策定件数

現状値	R3実績値	成果指標
4件 (2018年度)	11件 (2021年度) 進捗：B	20件 (2028年度)

施策の成果指標 (KPI) の「進捗」について  
『A』：成果指標とする数値を達成した又は達成に近い状況である  
『B』：成果指標とする数値の達成に向け概ね順調に推移又は現状値(初期値)から進展がある  
『C』：現状値(初期値)から進展がない又は後退した。  
『ー』：データが未集計若しくは有効な数値がない又は施策効果の発現・把握が今後になるもの

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

### (5) 朝日地域

生活環境の維持確保対策により一定程度の世帯減少率に抑制は図られたものの、農林業や観光業の担い手の確保や地域づくりを支える人材の育成が必要とされる。

若者同士や地域とのつながりを目指して「チーム WaGeSho(わけしょ)」が結成され、若者同士のネットワークづくりや人材育成の環境づくりを実施した。

朝日庁舎について、デジタル技術を活用し、過疎対策の司令塔としての機能を持った施設整備を進める。

#### (ア) 中山間地域における定住環境の支援

- ・大綱地区をモデルとした「小さな拠点づくり」を推進し、既存集落の維持に努めた。
- ・地域内交通対策として、市営バスの運行や高校生等の通学費に対する支援事業を実施した。
- ・克雪住宅の建築や生活道の除雪対策等に支援した。

#### 転出による世帯減少率

現状値	R3実績値	成果指標
△2.3% (2017年度)	△1.8% (2021年度)	△1.5% (2028年度)
	進捗：B	

#### (イ) 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した 農林業の振興

- ・山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうの生産拡大と月山ワインの販売促進(月山ワインまつり運営事業への支援、特産品の付加価値向上と生産の省力化を進める取組への支援など)を実施した。
- ・山菜やきのこ等について、地域資源の栽培講習会の開催等を支援し、品質及び収益性の向上を図った。

#### 地域内経営耕地面積の確保

現状値	R3実績値	成果指標
843ha (2015年度)	732ha (2020年度)	820ha以上 (2028年度)
	進捗：C	

#### (ウ) 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

- ・道の駅「月山」では、観光情報の発信拠点や地場産業の振興、六十里越街道での自然体験等の交流拠点として事業を展開した。
- ・関係者の声を反映した整備方針による湯殿山スキー場のリフト改修を実施している。(令和4年度完了)
- ・インバウンドに対応したHP整備と新たなガイド育成の取組を支援し、六十里越街道等の魅力発信を強化した。

#### 朝日地域への観光入込客数

現状値	R3実績値	成果指標
526千人 (2017年度)	234千人 (2020年度)	530千人 (2028年度)
	進捗：C	



総合計画基本計画 評価調書 (中項目)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎総企課・産建課・市福課
------------	-----------------

1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(5) 朝日地域					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	成果指標(KPI)
	転出による世帯減少率	△2.3% (2017年度)	△2.8% (2019年度)	△1.9% (2020年度)	△1.8% (2021年度)	△1.5% (2028年度)
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる影響	現状値の原因・要因分析			
	B	有・ <input type="checkbox"/>	山間地という地理的条件により厳しい住環境にあるものの、世帯減少率は抑えられている。各種施策の実施により、生活環境の維持確保が図られたことが一定程度寄与していると推察する。			
5. 中項目の評価	<p>「中山間地域における定住環境の支援」として、生活環境の維持確保に向けた取組みや、地域を支える人材の育成、持続可能な地域運営組織の育成等の取組みに支援してきた。その中でも、地域を支える人材として若者世代による新たな組織が結成され、地域と連携した活動を開始するなど、取組の効果が表れ始めている。</p> <p>今後も住み慣れた地域に住み続ける上では、住民一人ひとりの安全・安心が確保され、遠隔地であっても住み慣れた地域の中で健康に生活できる環境整備や、産業の振興、地域コミュニティの維持再生、交流の促進、自然環境、観光施設等の地域資源を活かした多角的な地域活性化の取組を進める必要がある。</p>					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に向けた課題や今後の対応	<p>人口減少・少子高齢化の傾向が顕著で、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動が困難となっており、関係人口を含め、地域を支える人材確保が急務となっている。人口減少が進行しても安心して住み続けられる地域にしていくため、中山間地域における生活環境の維持確保に向けた取組みを進めるとともに、地域課題に対して地域が主体的に取り組むことができる状態を目指し、地域を支える人材の育成、持続可能な地域運営組織の育成等の取組みに支援する。さらには、デジタル技術を活用した施策等により、生活環境の維持確保が図られるよう支援する。</p>					

※進捗について

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3 数値 ≥ 成果指標)
- 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R 3 数値 < 成果指標)
- 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 ≥ R 3 数値)
- 『—』: データが未集計若しくは有効な数値がない

## 総合計画基本計画 評価調書（中項目）

担当部・庁舎・課室名

朝日庁舎 産業建設課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(5) 朝日地域					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	成果指標(KPI)
	地域内経営耕 地面積の確保	843ha (2015 年度)	—	732ha (2020 年度)	—	820ha 以上 (2028 年度)
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる 影響	現状値の原因・要因分析			
	C	有・ <input type="checkbox"/>	中山間地型の複合経営を目指した取組に支援したが、高齢化による離農や後継者不足により経営体が減少し、個人から法人経営体へ耕作が移行されたものの、管理条件が不利な圃場への作付けが見送られるなど、耕作面積が減少している。			
5. 中項目の評価	<p>「森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興」については、地域内農産物や加工品などの生産流通体系の整備により、販路・ファン拡大に一定の効果があったものの、コロナ禍による月山ワイン商品の販売不振やイベントの中止に加え、醸造用ぶどうの生産調整や高齢化による生産意欲の低下など、地域内の農業生産活動が縮小している。</p> <p>今後も住み慣れた地域に住み続ける上では、住民一人ひとりの安全・安心が確保され、遠隔地であっても住み慣れた地域の中で健康に生活できる環境整備や、産業の振興、地域コミュニティの維持再生、交流の促進、自然環境、観光施設等の地域資源を活かした多角的な地域活性化の取組を進める必要がある。</p>					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に向 けた課題や今後 の対応	<p>中山間地域における担い手農家の減少や高齢化の進行により、荒廃農地が増加しており、国土の保全、水源涵養等の多面的機能の低下が懸念されるため、耕作放棄地の発生を未然防止することにより多面的機能を維持し、将来にわたって農業生産活動を継続するため、広域化の取組により農用地等維持管理体制整備を図る。</p>					

## ※進捗について

『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3 数値  $\geq$  成果指標)『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値  $<$  R 3 数値  $<$  成果指標)『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値  $\geq$  R 3 数値)

『—』: データが未集計若しくは有効な数値がない

## 総合計画基本計画 評価調書 (中項目)

担当部・庁舎・課室名

朝日庁舎 産業建設課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(5) 朝日地域					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	成果指標(KPI)
	朝日地域への 観光入込客数	526 千人 (2017 年度)	492 千人 (2018 年度)	440 千人 (2019 年度)	234 千人 (2020 年度)	530 千人 (2028 年度)
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる 影響	現状値の原因・要因分析			
	C	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	広範囲に点在する多様な観光資源の複合的な活用や人材育成の取組が十分とは言えず、加えて新型コロナウイルス感染症によるイベント中止等により観光入込客数が減少した。			
5. 中項目の評価	<p>「自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興」については、豊かな自然や山岳信仰など多種多様な観光資源を組み合わせたイベント開催への支援や観光客の二次交通を確保し、観光客の受入環境の整備を進めてきたが、令和2年度からのコロナ禍により、多くのイベントが中止または規模を縮小しての開催を余儀なくされ誘客数が大幅に減少した。また、観光事業に関わる多くの活動が停滞し、担い手不足という課題が顕在化している。</p> <p>今後も住み慣れた地域に住み続ける上では、住民一人ひとりの安全・安心が確保され、遠隔地であっても住み慣れた地域の中で健康に生活できる環境整備や、産業の振興、地域コミュニティの維持再生、交流の促進、自然環境、観光施設等の地域資源を活かした多角的な地域活性化の取組を進める必要がある。</p>					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に向 けた課題や今後 の対応	<p>日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道をはじめ、豊かな自然環境や食文化などの観光資源の保全とそれらを組み合わせた観光コンテンツの磨き上げを図り、SNS等による情報発信をさらに促進する。併せて、コロナ禍により変化した観光者ニーズをとらえた受入体制の整備及び二次交通の確立に向けた取組を進める。また、観光事業の新たな担い手として地域の若者や女性など、多様な人材の活用に目を向け、それらが活躍できる環境や役割づくりなど人材育成の取組を強化する必要がある。</p>					

## ※進捗について

『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3 数値 $\geq$ 成果指標)『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 $<$ R 3 数値 $<$ 成果指標)『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 $\geq$ R 3 数値)

『—』: データが未集計若しくは有効な数値がない

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 総務企画課
------------	------------

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興
	中項目	(5) 朝日地域
	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援
2. 主な施策	① 防災拠点施設からの距離が遠く、豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。	
3. これまでの取組 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織については、朝日地域内 38 集落中 37集落で結成されている。防災知識の普及、災害予防に関する学習、有事の際の情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導等の応急対策を想定した防災訓練を行うなどの支援、協力を行い、育成強化を図った(令和2年度、令和3年度はコロナ禍により防災訓練は中止したが、令和4年度は市の総合防災訓練を朝日地域で実施)。</li> <li>土砂災害ハザードマップや令和元年度に更新した洪水ハザードマップを活用し、地域住民が非常時に速やかに行動できるよう、自主防災組織のマニュアルとなる地区防災計画の作成を促進した。地区防災計画の作成等に関して不明な点などがある場合は、市から防災アドバイザーを派遣するなど、地域住民への防災意識の醸成を図った。</li> <li>住民自らが初期消火を行うために必要な消火栓ボックスや消火栓ホースの更新整備の費用を住民自治組織総合交付金に盛り込んでいるほか、地域の防災活動に直接必要な設備等の整備についてはコミュニティ助成事業の自主防災組織育成助成事業を紹介し、実施を希望する自主防災組織の採択に向けた支援を行った。</li> <li>朝日庁舎の再整備について、調査設計を行っている。</li> </ul>	
4. 主な施策に関わ る背景と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝日地域には七五三掛地区のような地すべり危険箇所をはじめ、急傾斜地崩壊危険箇所や土石流危険渓流が多く、ひとたび災害が発生すると、甚大な被害につながりかねない危険性を絶えず抱えている。また、冬期間の積雪も極めて多く、中山間地の中で点在する集落を抱えているため災害時に孤立する可能性があり、防災施設等の整備についても平野部とは異なる対応が求められている。</li> <li>自主防災組織が火災等の災害発生時に初動体制を確立し、災害対応力を十分に発揮できる活動組織とするため、訓練等を通じて継続して育成支援する必要があるとともに、消防分署からの距離が遠く消防組織による火災対応に時間を要する可能性がある。</li> <li>大規模な災害により孤立するおそれのある集落については、通信手段が断絶することにより情報の確認や伝達が困難な状況が発生することや、生活物資の搬送に支障が生じるため、万が一孤立した場合には被災状況の早期把握による初動対応の体制確保が求められる。</li> <li>地域の防災拠点となる朝日庁舎は、建設から50年以上経過して老朽化が進み、耐震性も不足しているため新庁舎の建設が必要となっているほか、消防署朝日分署も老朽化が著しく、朝日庁舎と離れて位置しているため、災害発生時における情報を共有化し迅速な対応ができないことが課題になっている。</li> </ul>	
5. 今後の方向性 (R6~R10))	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災等の災害発生時は自主防災組織による初動が重要である。また、大規模な災害が発生した場合には、自主防災組織や地元消防団等、総力を挙げて対処しなければならない。地元消防団と共に地域防災力を支える両輪として、引き続き自主防災組織の活動を支援し、防災知識を深め、技術の向上に努める。</li> <li>市民の安全安心な生活基盤となる施設として朝日庁舎と朝日分署を合築することで、地震や風水害等の自然災害や火災時における地域防災の拠点として整備するとともに、施設機能を集約することにより、地域防災拠点施設としての機能強化を図る。</li> </ul>	

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 総務企画課
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ア 中山間地域における定住環境の支援</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援
大項目	7 地域の振興						
中項目	(5) 朝日地域						
小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援						
<p>2. 主な施策</p>	<p>② 地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、持続可能な地域運営組織の育成とコミュニティ施設など活動拠点の整備を推進します。</p>						
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>○過疎・中山間地域コミュニティ組織への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落対策事業の取り組み</li> </ul> <p>住民主体による地域の実情に応じた積極的な集落対策を推進するため、集落支援員を継続して配置し、集落巡回・点検及び課題整理を進めた。モデル集落においてはアドバイザー・コーディネーター役となり、住民同士の話し合いの促進や集落ビジョン策定への指導・助言、集落ビジョンに基づく実践事業に対する支援などを行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小さな拠点づくり」の推進</li> </ul> <p>平成28年度～令和2年度に大網地区をモデル地区として、基幹集落への生活機能の集約や生活交通の確保を図りながら、生活基盤の維持・強化を目指し、地域の将来像として策定した地域デザインに基づくプラン具現化に向けた活動へ支援した。令和3年度からは「交流の里おおあみ」づくり支援事業として、住民が主体となり行う地域課題解決のための試行的取り組みに支援した。</p> <p>○身近な地域課題に住民自らが取り組む仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターを拠点にした地域課題解決に向けた住民自らの取組を支援</li> </ul> <p>朝日地域に3つの広域コミュニティ施設(朝日中央コミュニティセンター、朝日南部コミュニティセンター、大網地区地域交流センター)を設置し、各自治会、団体等の自主的活動を尊重しながら相互の連携強化を図り、地域課題解決に向けた学習・研修等の実施や住民ニーズに沿った講座等の開催により地域づくりや生きがいづくりを推進した。</p> <p>中でも朝日中央コミュニティセンターでは、「朝日いきいき大学」の開催による生涯学習の推進や「あさひ産業文化まつり」開催における会場として、朝日地域の産業や芸能文化の振興を図った。図書館が併設されていることから、市民への情報提供や学習の場としての役割も果たし、朝日地域全体のコミュニティ拠点施設にもなっている。</p>						
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>中山間地域である朝日地域は、市内でも人口減少・少子高齢化の傾向が特に顕著で、山林や農地、雪下ろし等を含めた建物等の維持はもとより、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動も困難となっている。今後ますます世帯員の減少と高齢化が進むことが予想され、関係人口の拡大も含め、地域を支える人材確保が急務となっている。</p>						
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10))</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落対策は過疎対策の重要施策であり、既存集落を維持するための施策とともに、住民主体による地域の実情に応じた積極的な集落対策を推進するため、集落支援員を継続して配置し、住民同士の話し合いの促進や集落ビジョン策定への指導・助言、集落ビジョンに基づく実践事業に支援する。</li> <li>・各広域コミュニティ施設により、各自治会、団体等の自主的活動を尊重しながら相互の連携強化を図り、地域課題解決に向けた学習・研修等の実施や住民ニーズに沿った講座等の開催により地域づくりや生きがいづくりを推進する。また、住民が集う拠点施設としての維持管理を行い、施設の整備拡充を進める。</li> <li>・官民連携による新たな地域課題解決への取組である「朝日地域共創プロジェクト」への支援を通じて地域デジタル人材の育成を図り、インターネット上での交流の場等を活用した、幅広い世代の地域住民による地域づくりへの参画を促す。</li> </ul>						



総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 総務企画課
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ア 中山間地域における定住環境の支援</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援												
大項目	7 地域の振興																		
中項目	(5) 朝日地域																		
小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援																		
<p>2. 主な施策</p>	<p>③ 学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。</p>																		
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>○地域内生活交通の維持・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域市営バスの運行 平成29年4月から朝日地域市営バスの運行を開始し、「大鳥線」と「田麦俣線」ともに平日のみの運行(土日祝休日及び12月31日から1月3日は運休)で、日中の高齢者の通院や買い物の移動手段として2便(2往復)運行している。運行経路は庄内交通の路線バスを基本とし、大鳥線は「松ヶ崎公民館」、田麦俣線は「旧田麦俣分校口」を発着場所にして利便性を向上させ、さらには地域の声を反映して倉沢地内にバス停を設置するなど、地域住民のニーズに即した運行を実施している。</li> <li>・市民協働による公共交通活性化の推進 朝日地域市営バス利用拡大協議会を設置し、地域住民、事業者、行政等が一体となって公共交通の課題を共有し、利用促進に努めている。市営バスのダイヤや経路のほか、庄内交通株式会社の路線バスの運行に関する要望も行っている。</li> </ul> <p>○遠距離通学者の定住支援</p> <p>過疎・中山間地域の定住支援として、遠隔地に居住し負担が大きい地域の高校生等の通学費に支援を行うとともに、公共交通機関の利用拡大を推進している。令和元年度から朝日地域高等学校等生徒通学費支援事業として取組み、朝日地域ではこれまで延べ37名の保護者に対し助成を行った。制度導入から4年目を迎え、高校入学時からの制度利用が可能になった。</p>																		
<p>4. 主な施策に関する背景と課題</p>	<p>朝日地域内公共交通は平成29年度から再編され、庄内交通株式会社が運行していた路線バスが減便・短縮となり、平日日中において廃止された路線の代替措置とし、市営バスの運行が始まった。現在は土日祝日の運行がないことから増便に対する要望も出ており、地域主体による新たな交通システムの導入も視野に入れながら、交通システムの利便性を高めていく必要がある。</p> <p>また、朝日地域は遠隔地という地理的要因により、高校生等の通学費や時間的負担が大きいため、高校進学を機とした市内転出等により、若者世代の人口流出につながっている。</p> <p>・朝日地域市営バスの運行状況</p> <p>輸送人員は、平成29年度から令和元年度まで年間3,000人程度で推移してきた。しかし、新型コロナウイルスの蔓延により、令和2年度は令和元年度比の6割まで落ち込んだ。令和3年度は令和2年度比1.13倍とやや回復基調にあるが、外出を控える傾向が続いており、コロナ禍前に比べ約68%にとどまっている。</p> <div data-bbox="826 1473 1476 1825"> <table border="1"> <caption>年度別の輸送人員、一便あたりの利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>輸送人員(人)</th> <th>一便あたりの利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>3,061</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3,121</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>2,917</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>1,812</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>2,063</td> <td>2.1</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	輸送人員(人)	一便あたりの利用者数	H29	3,061	3.1	H30	3,121	3.2	R01	2,917	3.0	R02	1,812	1.8	R03	2,063	2.1
年度	輸送人員(人)	一便あたりの利用者数																	
H29	3,061	3.1																	
H30	3,121	3.2																	
R01	2,917	3.0																	
R02	1,812	1.8																	
R03	2,063	2.1																	
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の視点に立った地域内交通対策として、バス路線から離れた集落に対する交通手段の検討や、朝日地域の3地区(朝日中央・朝日東部・朝日南部)が主体となって行う地域内交通の調査研究への取組みに支援し、地域の実情を踏まえた交通システムの維持・確保を図る。</li> <li>・遠距離通学者の定住支援として高校生等の通学費支援を行うことにより、高校進学を機にした転出等の人口流出の抑制により若者世代人口の維持につながることから、事業の継続を目指す。</li> </ul>																		

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 産業建設課・総務企画課
------------	------------------

1. 基本計画での位置付け	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ア 中山間地域における定住環境の支援</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援						
大項目	7 地域の振興												
中項目	(5) 朝日地域												
小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援												
2. 主な施策	④ 除雪支援など、雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。												
3. これまでの取組内容	<p>○克雪対策事業の積極的な推進          平成5年3月、旧朝日村で建設省の指定に基づき、多雪地域住宅計画(克雪タウン計画)を策定、平成8年3月、克雪タウン計画促進事業「雪に強い住宅づくりプラン」を策定、平成8年度から克雪対策に係る事業を実施している。</p> <p>・克雪住宅整備支援事業          旧朝日村区域において、住宅の効率的な雪処理と雪に強いまちづくりを推進するため、克雪住宅を建築し、又は増改築しようとするものに補助金を交付した。          [支援内容: 克雪住宅直接工事費1/3以内(上限50万円)]</p> <p>・克雪対策生活道整備事業          旧朝日村区域において、住宅の快適な生活環境のため、小規模生活道の改良舗装及び除雪対策事業を行うものに補助金を交付した。          [道路改良舗装: 補助対象経費4/10以内(上限25万円)]          [小型除雪機械購入: 補助対象経費から45万円を控除した額の1/3以内(上限25万円)]          [融雪施設整備: 補助対象経費の4/10以内(上限25万円)]</p> <p>○地域住民が共同で取組む除雪体制の仕組みづくり</p> <p>・朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業          広域コミュニティ組織が主体となり、高齢者、障がい者など自力で除雪を行うことが困難な世帯と、除雪機を所有し事業に協力できる協力者をグループ化して行う玄関前除雪へ支援した。  <table border="1" data-bbox="1015 1178 1481 1330"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>グループ数</th> <th>世帯数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>4グループ</td> <td>11 世帯</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>5グループ</td> <td>13 世帯</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>6グループ</td> <td>14 世帯</td> </tr> </tbody> </table>         [支援内容: 除雪機保険料(上限4ヶ月)、修理費(1台上限4万円)、燃料費(1台上限2万円)]</p> <p>・豪雪対策特別支援事業          地域豪雪対策本部が設置された際には、朝日地域全域において、各自治会等が中心となり地域住民が共同で行う家屋周辺の雪処理に支援した。          [建設機械作業分: 経費の3/10以内]          [建設機械の運搬分: 経費の10/10以内(上限6万円)]</p>	年度	グループ数	世帯数	R1	4グループ	11 世帯	R2	5グループ	13 世帯	R3	6グループ	14 世帯
年度	グループ数	世帯数											
R1	4グループ	11 世帯											
R2	5グループ	13 世帯											
R3	6グループ	14 世帯											
4. 主な施策に関わる背景と課題	<p>朝日地域は特別豪雪地帯であり、最高積雪深は3mを超える。雪との戦いは、事故などの危険だけでなく、雪下ろし労力や経費の負担が大きいため過疎化が進行する原因になっている。</p> <p>また、高齢化の進行により除排雪作業の労働力が不足している中で、地域内互助の仕組みによる支援に加えて、地域外からの支援を取り入れる仕組み等の検討も必要になっている。</p>												
5. 今後の方向性(R6~R10)	<p>・住民の負担軽減を目的として、引き続き克雪対策事業を実施する。</p> <p>・豪雪地帯における定住環境の確保につながる住民主体の協働による除雪への支援を行う。朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業も含めて、今後の克雪対策事業の展開について検討していく。</p>												

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 市民福祉課
------------	------------

1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興																																											
	中項目	(5) 朝日地域																																											
	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援																																											
2. 主な施策	⑤ 高齢者の自立促進と健康寿命の延伸のため、近隣住民の協力や支え合いの仕組みづくり、医療機関、関連福祉団体との連携や地域資源を活用した事業などを通して、高齢者支援体制の充実を図ります。																																												
3. これまでの取組内容	<p>○健康寿命の延伸を目指した取組</p> <p>かたくり温泉ぼんぼを会場に、温泉を活用した介護予防事業を実施した。市では、施設を管理運営する地元住民からなる、かたくり温泉ぼんぼ管理運営組合に光熱水費相当分を地域まちづくり未来事業により支援を行った。</p> <p>①鶴岡市地域介護予防活動支援事業「ぼんぼいきいき百歳体操」 H30.8より事業開始 ぼんぼいきいき百歳体操の会主催 毎週金曜開催</p> <p>②鶴岡市介護予防・日常生活総合支援事業(通所型サービスB)「いきいきぼんぼ」 R1.8より事業開始 いきいきぼんぼの会主催 毎週火・木曜開催</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="5">①ぼんぼいきいき百歳体操実施状況 (人)</td> <td colspan="5">②いきいきぼんぼ実施状況 (人)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td></td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施回数</td> <td>31</td> <td>51</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>実施回数</td> <td>87</td> <td>71</td> <td>88</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>511</td> <td>639</td> <td>587</td> <td>516</td> <td>参加者数</td> <td>859</td> <td>595</td> <td>727</td> <td></td> </tr> </table> <p>○医療環境の整備(国保直営診療施設:上田沢診療所、大網診療所) 公共交通機関の利用が不便な地区で移動手段を持たない高齢者の受診機会を確保するため、上田沢は平成元年度、大網は平成20年度より患者輸送車を運行している。また、老朽化に伴う施設設備の改修等を計画的に行い、令和5年度には医事会計システム改修によるマイナンバーカードを活用したオンライン資格確認の導入を進める。さらに、診療機能の向上として個別特定健診(70歳以上対象)、各種予防接種を実施している。</p>					①ぼんぼいきいき百歳体操実施状況 (人)					②いきいきぼんぼ実施状況 (人)						H30	R1	R2	R3		R1	R2	R3		実施回数	31	51	42	45	実施回数	87	71	88		参加者数	511	639	587	516	参加者数	859	595	727	
①ぼんぼいきいき百歳体操実施状況 (人)					②いきいきぼんぼ実施状況 (人)																																								
	H30	R1	R2	R3		R1	R2	R3																																					
実施回数	31	51	42	45	実施回数	87	71	88																																					
参加者数	511	639	587	516	参加者数	859	595	727																																					
4. 主な施策に関わる背景と課題	<p>○健康寿命の延伸を目指した取組</p> <p>介護予防事業の会場である温泉施設を運営してきた管理運営組合が、コロナ禍の影響による利用者数・利用料収入の減少と燃料費や光熱水費の経費高騰による経営維持困難から、令和4年度中に営業を終了した。これまで実施してきた介護予防・健康増進事業の継続方法の検討が必要。</p> <p>○医療環境の整備(国保直営診療施設:上田沢診療所、大網診療所) 朝日地域には開業医がないことに加え、少子高齢化が急速に進み高齢者世帯が増加しているため、地域の一次医療機関として欠かすことのできない役割を担っているが、人口減少や患者の死亡・入院等により利用者が年々減少している。また、公共交通機関の利用が極端に不便な地域であるため、受診するには交通手段の確保が必要である。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="5">*区域内人口 (人)</td> <td colspan="5">*利用延べ人数 (人)</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>診療所</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>上田沢</td> <td>506</td> <td>487</td> <td>468</td> <td>441</td> <td>上田沢</td> <td>397</td> <td>353</td> <td>322</td> <td>271</td> </tr> <tr> <td>大網</td> <td>329</td> <td>303</td> <td>276</td> <td>264</td> <td>大網</td> <td>1,425</td> <td>1,293</td> <td>1,164</td> <td>1,080</td> </tr> </table>					*区域内人口 (人)					*利用延べ人数 (人)					診療所	H30	R1	R2	R3	診療所	H30	R1	R2	R3	上田沢	506	487	468	441	上田沢	397	353	322	271	大網	329	303	276	264	大網	1,425	1,293	1,164	1,080
*区域内人口 (人)					*利用延べ人数 (人)																																								
診療所	H30	R1	R2	R3	診療所	H30	R1	R2	R3																																				
上田沢	506	487	468	441	上田沢	397	353	322	271																																				
大網	329	303	276	264	大網	1,425	1,293	1,164	1,080																																				
5. 今後の方向性(R6~R10)	<p>○健康寿命延伸を目指した取組</p> <p>これまで行ってきた介護予防・健康増進事業を他団体へ引継ぐための協議を行い、かたくり温泉ぼんぼ管理運営組合による温泉営業終了後も源泉を活用した健康増進機能を維持し、地域住民の介護予防・健康増進の推進と担い手育成に努める。</p> <p>○医療環境の整備(国保直営診療施設:上田沢診療所、大網診療所) 住み慣れた地域で子どもから高齢者までが安心して利用することができるように、プライマリケアの診療が可能な医師の確保、医療機器等の整備を図るとともに、老朽化している施設・設備の計画的な改修等を実施する。また、高齢化がさらに進むことにより、通院が困難な高齢患者や在宅療養患者の増加が見込まれることから、継続した輸送手段を確保する。</p>																																												

## 総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名

朝日庁舎 総務企画課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興
	中項目	(5) 朝日地域
	小項目	ア 中山間地域における定住環境の支援
2. 主な施策	⑥ 豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。また、交流事業などを通じた関係人口の拡大と人材育成を推進します。	
3. これまでの取組 内容	<p>○自然環境教育実践施設の整備充実(大鳥自然の家環境整備事業)</p> <p>大鳥地区の豊かな自然環境を活用した集団宿泊体験等を通じて児童生徒等の健全育成を図り、環境教育を展開するなかで地域交流や地元スタッフ活用による人材育成、地域資源の整備による地域振興を図った。また、快適な利用環境整備のため適切な施設修繕を行い、環境教育プログラム開発によるプログラムの充実を図った。利用者が比較的少ない冬期間においては、指定管理者による自主事業として、ウサギの巻狩りやかんじきトレッキングなど地域文化を体験できる事業を実施する等、通年での施設活用による利用拡大を図った。</p> <p>○地域の若者同士や地域とのつながりづくりによる人材育成の推進</p> <p>地域内の若者同士や地域とのつながりづくりを目指して、令和3年にプロジェクトチーム「チームWaGeSho(わけしよ)」が結成され、朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業の実施により、チーム会議や交流会開催等への取組みに支援を行った。</p> <p>○国際理解の推進・人材育成</p> <p>鶴岡タイ「子どもの村学園」友好協会が主催するタイ国「子どもの村学園」との交流事業として「子どもの村学園」国際交流派遣事業により支援し、青少年の国際派遣から青年の支援、交流に結び付け、地域づくりを支える人材育成を図った。</p> <p>○朝日地域内における地域情報の発信</p> <p>市主催事業や地域内活動への理解を深め参加促進につなげるため、地域行事や学校行事等を掲載したカレンダーを作成し、地域住民や公共施設等へ配布を行った。</p>	
4. 主な施策に関わる 背景と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大鳥自然の家は、旧大鳥小学校を活用して昭和61年に設置した施設であることから経年劣化による修繕費用が膨らんでおり、施設の維持管理保全のために計画的な施設修繕が必要となっている。加えて、感染防止対策を徹底したプログラムの展開により、利用者数の回復を図る必要がある。</li> <li>旧朝日村で実施してきた青少年の国際交流派遣事業が平成18年度を最後に派遣が途絶えたため、地域に有為な人材育成の機会が失われている。</li> <li>今後も人口減少や少子高齢化の進行が予想される中で、中山間地域で安心して暮らし続けるためには、関係人口の拡大も含めた地域を支える人材の確保が必要である。</li> </ul>	
5. 今後の方向性 (R6~R10))	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境教育実践施設の整備充実として、大鳥自然の家環境整備事業の継続実施により、老朽化した施設の維持管理保全のための環境整備を計画的に行い、環境プログラムの開発・整備により地域資源を活かした環境教育を実践することで、関係人口の拡大や人材育成を推進する。</li> <li>持続可能な地域運営組織の育成や地域づくりを支える人材の育成、交流事業を通じた関係人口の拡大など、中山間地域での暮らしを支える取組みに対して継続して支援を行う。</li> <li>国際交流派遣事業は、令和元年度以降コロナ禍により実施できない状況だが、人的派遣に依らない交流を継続し事業への中高生の関心を高める。</li> <li>朝日地域における地域情報の発信としてカレンダー作成を継続し、伝統行事、生活文化、風習等と合わせ、地域での活動を紹介する機会を提供し、地域理解を深めてもらう取組を進める。</li> </ul>	

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 産業建設課
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興
大項目	7 地域の振興						
中項目	(5) 朝日地域						
小項目	イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興						
<p>2. 主な施策</p>	<p>① 出荷手段を持たない高齢者などへの支援により生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、月山ワイン、山菜、そばなど、地域内農産物の生産振興や新たな特産品開発への支援、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。あわせて、鳥獣被害防止対策の取組を推進します。</p>						
<p>3. これまでの取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の農産物、加工品の生産振興、販路拡大および消費拡大の取り組みへの支援を実施 山の恵み産地化事業、山ぶどうワイン賑わい支援事業、月山ワインまつり運営事業支援、朝日産そば振興事業、山ぶどう産業自立化支援事業</li> <li>地域資源を活かした特産品開発や6次産業化など生産者の所得向上を図る取組を実施 あさひの特産応援事業</li> <li>地域の郷土食・行事食の保存継承を進める取組への支援を実施 伝統料理の継承事業</li> <li>友好協力協定締結都市 墨田区とのイベントでの特産品販売を通じた民間交流への支援を実施 すみだまつり、墨田区友好都市交流展、すみだ雪まつり など</li> <li>地域農業の将来を担う若者農業者の交流、活動への支援を実施 朝日地域若者農業者支援事業</li> <li>鳥獣被害防止対策の取組の実施 ハード面での支援として鳥獣被害軽減モデル事業(電気柵)及び補助事業を実施</li> </ul>						
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝日地域は全国有数の豪雪地帯で、山間を縦貫する川沿いに集落が点在する地理的条件から、平野部と比較して厳しい住環境にあり、人口減少、少子高齢化の進行が著しい。中でも、後継者や担い手不足により山林、農地の荒廃、有害鳥獣被害の増加が著しく、耕作意欲の減退を招いている。</li> <li>小規模ながらも稲作を中心として特産品(醸造用ぶどうをはじめとする果樹、山菜、沖田なす、ニラなどの野菜、菌茸類)などを組み合わせた複合経営を確立し一定の農業所得を目指す兼業農家と、積極的に集積を進め規模拡大を図る法人による農業経営の形があるが、いずれにしても条件不利地で営農している状況にある。</li> <li>昭和50年代から地域を上げて栽培されてきた醸造用ぶどうは、高齢化による生産者の減少とともに、生産面積、生産量とも減少傾向にある。</li> <li>鳥獣被害対策は、個人の有する農用地等での対策は進んでいるが、集落・自治会等集団での環境整備的対策は進んでいない。</li> <li>農業、農村に関わる人が減少しているが、農業・農村の有する多面的機能の恩恵が今後も地域で十分に受けられるよう、日本型直接支払交付金も活用しながら農村機能の維持に取組む必要がある。</li> </ul>						
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>醸造用ぶどうの生産拡大、品質向上の取組、生産の担い手確保の取組を支援する。月山ワインの一層の普及・消費拡大に向け月山ワインまつり開催等を支援し、生産者の所得向上に繋げる。</li> <li>新そばまつりなどのイベントや新商品の開発等により、朝日産そばの認知度向上、消費拡大に向けた取組を継続する。</li> <li>友好協力協定都市 墨田区との交流において交流主体である民間団体「朝日すみだ会」によるイベントでの地域特産物販売を中心とした交流を支援し、都市交流の促進、販路拡大につなげる。</li> <li>高齢化などで離農が増加する中で、これからの地域農業の担い手となる若者農業者に対し今後の農業を考える機会の提供、研修等の実施により、時代の変化に応じた農業を主体となって取り組めるよう支援する。</li> <li>IoT や人工知能技術等を活用した鳥獣被害対策について、専門機関等からの協力を得つつ、地域住民と協力して取り組む。</li> <li>日本型直接支払取組組織の持続可能な活動の支援のため、取組組織の広域化ならびに事務の一元化による事務負担の軽減を推進し、取組組織の活動継続のための伴走的支援を行う。</li> </ul>						



総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 産業建設課
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興												
大項目	7 地域の振興																		
中項目	(5) 朝日地域																		
小項目	イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興																		
<p>2. 主な施策</p>	<p>② 木材、薪炭などの活用を推進します。また、菌茸などの栽培研究や技術研究などを進めることにより販売量の確保や生産者の育成を図り、山林の荒廃防止対策を推進します。</p>																		
<p>3. これまでの取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域森林荒廃防止支援事業(令和元～3年度) 市管理林道 33 路線約 82km の支障木調査を実施し整備、側溝の落ち葉清掃や洗掘しやすい箇所へ予防整備など実施した。</li> <li>・山の恵み産地化事業(令和元年～) 原木きのこの種駒購入費助成(令和元～3年度)、原木きのこ、山菜の生産量・生産技術の向上に向けた栽培技術研修会の開催(令和元、3、4年度 圃場見学と講話)などの取り組みに支援した。</li> </ul>																		
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域は森林資源(用材林・薪炭・桑園・草地利用等)の活用に取り組んできたが、高齢化や人口減少などにより、森林資源の活用が減少している。</li> <li>・中山間地における作付の減少に伴い集落と森林との間に緩衝地帯として管理されていた農地の荒廃が進んでおり、鳥獣被害拡大の一因にもなっている。</li> </ul> <div data-bbox="815 1025 1461 1424" style="text-align: center;"> <p>朝日地域内クマ出没状況</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>朝日地域内クマ出没状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>クマ出没・目撃件数</th> <th>クマ捕獲件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30年度</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>42</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>33</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>25</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度はR5年1月末までの件数</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域を代表する特産林産物である原木きのこ栽培は、個人による栽培で複合経営の一環で行われているものがほとんどである。販売単価、需要の低迷と種駒の値上がりから収益性が下がっているうえ、栽培に手間がかかり、世代間での継承が進まず、新規に取り組む展開も難しい分野であるため、生産者、販売量の減少が懸念される。</li> </ul>	年度	クマ出没・目撃件数	クマ捕獲件数	H30年度	18	9	R1年度	42	15	R2年度	33	29	R3年度	35	10	R4年度	25	16
年度	クマ出没・目撃件数	クマ捕獲件数																	
H30年度	18	9																	
R1年度	42	15																	
R2年度	33	29																	
R3年度	35	10																	
R4年度	25	16																	
<p>5. 今後の方向性 (R6～R10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業の担い手の生産活動の継続のためには頻発する自然災害や、鳥獣被害の予防も観点として必要であることから、担い手だけでなく地域住民も巻き込み、林道等林業用施設ならびに集落・森林間の緩衝地帯の維持管理を推進し、山林および里山の荒廃防止対策を進める。</li> <li>・山菜、原木きのこをはじめとする菌茸類の生産および流通の拡大、栽培技術の向上に繋がる取り組みを推進する。</li> </ul>																		

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 産業建設課
------------	------------

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興
	中項目	(5) 朝日地域
	小項目	ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興
2. 主な施策	① 湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源を組み合わせ、通年型観光による誘客を図るための環境整備を推進するとともに、インフォメーション機能の整備やガイド、インストラクターなどの人材育成を支援します。	
3. これまでの取組 内容	<p>月山あさひ博物村、あさひ自然体験交流施設は(株)月山あさひ振興公社(代表取締役:副市長)を指定管理者とし、タキタロウ館は大鳥地区村づくり推進協議会を指定管理者として管理運営を行い、大鳥多目的運動広場も管理委託している。各々の施設では特色のある事業を展開し、地域の観光拠点や交流施設としての役割を担っている。</p> <p>○道の駅「月山」月山あさひ博物村の施設整備及び拡充          [構成施設]文化創造館、そば処大梵字、梵字の蔵、梵字の茶屋、駐車場、公衆トイレ、地下道、つり橋 &lt;R3利用者数&gt; 33,220人          [取組]・文化創造館は、あさひむら観光協会が拠点を構え、地域資源を活かした主催事業の開催、六十里越街道の番所としての役割も持つ等、地域の観光情報を発信している。          ・そば処大梵字は、朝日産そばの提供やそば打ち体験等、消費拡大事業と合わせて地場産業の振興を行っている。          ・梵字の蔵は、ボルダリング体験を楽しめる施設で、梵字の茶屋は、山ぶどうを使ったアイスやジュース、自家製スイーツ等を提供して交流施設としての事業を展開している。          ・施設周辺の自然環境を活用したかたくり園、カブトムシ園、観光くり園での自然体験等の事業を展開している。</p> <p>○あさひ自然体験交流施設の施設整備及び拡充          [構成施設]湯殿山スキー場、あさひ家族キャンプ村          &lt;R3利用者数&gt; スキー場 22,816人/キャンプ場1,520人          [取組]・湯殿山スキー場は、第2 ロマンズリフトをリニューアルし、令和4年度シーズンから運行を開始した。第1ロマンズリフトも改修し長寿命化を図っている。          (第1ロマンズリフト800m、第2ロマンズリフト560m 2基)          (ゲレンデは、初心者から上級者まで楽しめる全9コース)          ・あさひ家族キャンプ村は、シャワーや電源、冷蔵庫等の設備を整え、快適なキャンプ環境を維持するとともに、ピザ焼き体験や野菜のもぎ取り体験などの体験プログラムの充実を図っている。          (オートキャンプサイト50区画、フリーキャンプサイト約20~25張)</p> <p>○タキタロウ館及び大鳥多目的運動広場を拠点とした大鳥地区の地域振興          [構成施設]タキタロウ館、大鳥多目的運動広場          &lt;R3利用者数&gt; タキタロウ館 3,713人/大鳥多目的広場キャンプ場 352人          [取組]・タキタロウ館は、大鳥池や以東岳等の朝日連峰の登山口に向かうための拠点として、山岳情報の発信、飲食の提供、地元産栃の実を使った加工品等の販売、釣堀運営等、山岳観光と地場産業の振興に取り組んでいる。          ・大鳥多目的運動広場は、運動だけでなく一部をキャンプ場として自然体験機会を提供している。</p>	

<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域は自然環境を生かした観光施設が整備され、それぞれが地域資源の有効活用や地域内外の交流拠点としての役割を果たしているが、いずれの施設も老朽化が進んでいる。</li> <li>・アウトドア体験施設の利用者数は、気象状況に左右されるが、特にスキー場は近年の冬季レジャーの多様化によりスキー・スノーボード人口が減少しており、利用者数が伸び悩んでいる。加えて各施設ともコロナ禍の影響は大きく、感染症対策を徹底し利用者数の回復を図る必要がある。</li> <li>・施設運営に欠かせないスキー場の索道技術者や、通年型観光を支えるガイド、体験型イベントのインストラクター等の人材確保、関係者の高齢化に伴う後継者育成が課題となっている。</li> </ul>
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10))</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設の計画的な修繕及び整備拡充 老朽化した施設や設備の長寿命化を図り、適切な維持管理と整備を行う。</li> <li>・道の駅「月山」及びあさひむら観光協会の充実した運営への支援 道の駅としての機能を有効に活用し、朝日地域の観光資源について積極的な情報発信を行う。また、観光ニーズを捉えた事業に取り組むあさひむら観光協会を充実した運営となるよう支援する。</li> <li>・あさひ自然体験交流施設の活用推進への支援 イベント開催等魅力あるスキー場運営を行なって利用者の満足度を高めるとともに、スキー教室や団体利用の促進を図り、特に若年層の誘客を強化して利用者の増加に繋げる。また、地域資源を活かした新たな体験プログラムを開発し、キャンプ場利用者の増加を図る。</li> <li>・タキタロウ館、大鳥多目的運動広場を拠点とした大鳥地区の地域振興 地域資源を活用したイベント開催や自然体験機会の提供など地域特性を活かした事業へ支援を行い、利用者数の回復及び交流促進による地域振興を進める。</li> </ul>

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	朝日庁舎 産業建設課
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(5) 朝日地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(5) 朝日地域	小項目	ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興						
大項目	7 地域の振興												
中項目	(5) 朝日地域												
小項目	ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興												
<p>2. 主な施策</p>	<p>② 日本遺産の構成文化財である六十里越街道や大鳥池、以東岳などの自然、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化などを観光資源として活用し、交流人口の拡大を図ります。</p>												
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>四季を通じて豊かな自然環境や豊富な森林資源、歴史的、文化的な観光資源の整備・活用を図る取組みや地域資源を活かしたイベント開催への支援、観光客の二次交通を確保し、観光客の受入環境の整備を進めるなど、人口減少が進行する朝日地域の活性化を目指し交流人口の拡大につながる取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな自然環境や歴史的、文化的な観光資源の整備・活用を図る取組             <ul style="list-style-type: none"> <li>・六十里越街道の活用促進                 <ul style="list-style-type: none"> <li>六十里越街道活用事業補助金 ・出羽の古道六十里越街道会議(西川町との連携事業)、六十里越街道魅力発信事業、食と六十里越街道トレッキング連携事業</li> </ul> </li> <li>・山岳資源の整備・活用及び登山環境の整備                 <ul style="list-style-type: none"> <li>大鳥池、以東岳避難小屋管理、湯ノ沢岳・摩耶山・田麦俣登山道整備管理、登山道施設整備、国有林活用測量業務、桧原二ノ俣峠越山道復元事業、朝日連峰コミュニティネット運用事業、大鳥地域淡水活性化事業</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○イベント開催による交流人口の拡大を図る取組への支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・タキタロウまつり運営事業補助金 ・月山あさひ雪まつり運営事業補助金</li> </ul> </li> <li>○観光客の二次交通を確保し、受入環境を整備する取組への支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日地域夏季観光バス運行事業</li> </ul> </li> </ul>												
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>・六十里越街道をはじめとする地域資源の活用による交流人口の拡大を図ってきたが、令和2年からのコロナ禍により、多くのイベントが中止または規模を縮小しての開催を余儀なくされ誘客数が大幅に減少した。人との接触回避が求められる中で観光資源の保全・整備活動が制限されるなど、観光事業に関わる多くの活動が停滞し、担い手不足という課題が顕在化している。今後、後継者育成など人材確保の取り組みを強化する必要がある。</p> <p>・周遊の拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの公共交通手段が少ないことに加え、平成29年には公共交通の再編により路線バスの運行区間が短縮される等、朝日地域を訪れる観光客にとっては不便な状況にある。以降の入込客数が減少傾向にあることから、二次交通の仕組みを確立し、観光客にとって利用しやすい環境を整えることが必要となっている。</p> <div data-bbox="517 1541 1302 1877" style="text-align: center;"> <p>朝日地域への観光入込客数の推移</p> <table border="1"> <caption>朝日地域への観光入込客数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入込客数(千人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>526</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>492</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>440</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>281</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	入込客数(千人)	H29	526	H30	492	R1	440	R2	234	R3	281
年度	入込客数(千人)												
H29	526												
H30	492												
R1	440												
R2	234												
R3	281												
<p>5. 今後の方向性(R6~R10)</p>	<p>多様な地域資源の保全と点在する観光資源の複合的な活用を進めるとともに、周辺地域との連携による交流人口の拡大を目指し、二次交通の確保や、コロナ禍により変化した観光者ニーズをとらえたSNS活用による情報発信の強化と受入れ環境整備、地域住民をはじめ関係者との連携による観光事業の人材育成推進など、観光振興による地域の活性化や地域経済の好循環の創出につながる取組を実施する。</p>												

7 地域と振興（大項目）					
No.	委員意見（要約）		回答	反映状況	回答課
(5) 朝日地域（中項目）					
1	ア	「ぼんぼ」営業休止等により市営バス利用者が減少しているなか、去年は新たな利用を探して運行ルート変更するなど対応されており、今後も市営バス運行の充実をお願いしたい。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策 ③地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。 ■市営バスも含めた地域内交通のあり方について調査研究を行うこととしている。	現計画に記載済み	朝日庁舎 総務企画課
2	ア	”ワゲショ”や”かだんこの会”などと世代を超えて一緒に何か取組ができれば地域が盛り上がっていくと思う。また”ワゲショ”の活動を広く知らせていければと思っている。地域コミュニティ事業の取組成果が出るまでには時間がかかるが、じっくりと失速しないように頑張っていきたい。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策(新規追加)②地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織を支援し、あわせて、活動拠点となるコミュニティ施設などの整備を推進します。 ■下線部分を新たに追加し、地域団体や若者組織の支援を計画(案)に反映する。	意見反映	朝日庁舎 総務企画課
3	ア	雪対策について、今冬はお年寄りから連絡があり「助け合い玄関前除雪支援事業」を利用した。今年は非常に雪が多かったため、事業が活用できて助かったと聞いているため、除雪事業に力をもっと入れてもらいたい。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策 ④雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。 ■前期計画に引き続き、克雪対策支援の取組を進める。	現計画に記載済み	朝日庁舎 総務企画課
4	ア	勤務体系の変化から夜勤等が増え、若い人達は冬期間の通勤に課題を感じている。(除雪体制の理由から、深夜12時から2時・3時近くまで除雪がされていない。)最近の除雪体制では、朝日に住むことが非常に心配で、結婚したら市中心部に住むという人達が結構いたと聞いた。住みやすい地域にするための除雪体制が必要ではないか。	総合計画に記載の除雪対策に関して、定住環境の整備として朝日地域独自に克雪住宅建設に関する助成制度を設けている。また、除雪体制については、早朝、夕刻(日中)の除雪を基本として、通勤・通学の足の確保に努めている。今後も、定住環境整備について他町村の取組など調査研究し、具体的な取組みについては関係課と検討を深めていく。	今後検討	朝日庁舎 産業建設課
5	ア	克雪対策として、朝日地域では克雪住宅支援に取組んでいるが、その年の要望有無が予算確保に影響し、財政面が不安定だと聞いた。2・3年前から要望調査を行うことで安定した予算確保に繋げて、さらに朝日の森林財産を使用した場合に補助を上乗せするのも大事ではないか。	総合計画に記載の克雪住宅支援については、検討段階から当方に相談いただくことで、予算反映に繋げるよう広報に努める。また、山形県産木材を使用すると補助金が交付されるなど、朝日地域に住宅を建てたい、リフォームしたい方に対して、住宅に関する補助事業などの情報が届くよう取組んでいく。	今後検討	朝日庁舎 産業建設課



7 地域と振興（大項目）					
No.		委員意見（要約）	回答	反映状況	回答課
6	ア	朝日地域に若い年代が少ない要因として、帰ってきて働く場所がない等が考えられるため、若い人が朝日地域で住み続けられる環境を作られるかが大事だ。地元企業への就職が企業振興にも繋がる。朝日地域には素晴らしい企業があり、その方々の持続可能な環境づくりや支援をやるべきではないか。	大項目 商工と観光 中項目 (3)本市の産業を支え発展に導くはたらく人の確保・育成 小項目 ア 若者の地元就職と地元定着の促進 施策の方向 新規学卒者やUIJターン求職者をはじめとする若い人材の地元就職を促進するため、成長の段階に応じた職業観や就業意識を醸成するとともに地元企業に対する理解を促進します。また、若者に対する地元企業の訴求力を高め、若者に「働く場所」として選ばれる地域を目指します。 ■市総合計画において地元雇用、UIJターン求職者への地元就職情報の発信を行うなど地元回帰を促進する施策を行っており、市全体の施策として取り組んでいく。	意見反映	朝日庁舎 産業建設課
7	ア	市ではJUIターンを進めているが、新卒で地元就職してもらえる手だてとして、中学生の段階から地域の産業を知ってもらう機会が必要だ。市の中でも地域により違いがあるため、朝日地域の振興施策として考えていく必要があるのではないか。	大項目 商工と観光 中項目 (3)本市の産業を支え発展に導くはたらく人の確保・育成 小項目 ア 若者の地元就職と地元定着の促進 主な施策 ①キャリア教育の充実により市内の小中学生、高校生、高専生、大学生など成長段階に応じて職業観や就労観を醸成するとともに、保護者も対象にした地元企業の紹介や就職情報の提供を強化し、地元企業への理解を促進します。 ■市総合計画において成長の段階に応じた職業観や商業意識を醸成するなど地元企業に対する理解を促進する施策を行っており、市全体の施策として取り組んでいく。	意見反映	朝日庁舎 産業建設課
8	ア	価値観の違いもあるが、大鳥の良いところを知らないで転出するケースが見受けられる。地域の良さを広く知ってもらうために情報発信することが必要だ。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策 ②交流事業や地域資源を活用した関係人口の拡大を推進します。 ■関係人口の拡大に向けた取組みの一つとして、情報発信を進めていくこととし、計画(案)に反映する。	意見反映	朝日庁舎 総務企画課
9	ア	朝日地域の中央地区は無医村で診療所もない。地域での話し合いで、例えばコミセン等で医療・健康相談が受けられると良いとの意見が出された。医者との関わりもあるが、同じ電子カルテが使えるれば、わざわざ市街地まで行かなくとも今の健康状態に合わせた健康相談も可能ではないか。	大項目 福祉と医療 中項目 (6)医療提供体制の充実 小項目 イ 急性期・回復期・慢性期から在宅医療までの切れ目のない医療の提供 主な施策 ③地域連携パスの運用拡大や医療情報ネットワーク在宅医療におけるオンライン診療などICTの活用促進を図ります。 ■市総合計画において、医療提供体制として在宅医療におけるオンライン診療のICT活用を促進する施策を盛り込み、市全体の施策として取り組んでいく。	意見反映	朝日庁舎 市民福祉課

7 地域と振興（大項目）					
No.		委員意見（要約）	回答	反映状況	回答課
10	ア	デジタル技術や担い手育成とあるが、実際に朝日地域には若い人が少ない。デジタル化を高齢者に浸透させるには工夫が必要だ。若い人がいないと中間世代がその役割を担うことになるが、若い人から何とか残ってもらえるような施策を考えていただきたい。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 施策の方向 地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、地域を支える人材の育成・確保を進めます。あわせて、地域資源である自然環境を活かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを進め、中山間地域の暮らしを守り支える取組を行います。 ■下線部分を新たに追加し、若者が定住できる環境づくりを通じた人材育成を計画(案)に反映する。	意見反映	朝日庁舎 総務企画課
11	ア	朝日地域に住んでいる子ども達に対して自然に親しむ機会を作らなければ、里山の面白さを知ることもなく成長する。そうすると、便利な市街地に住みたくするのは当然だろう。子ども達が自然の中で、面白い、楽しいと思える「きっかけづくり」をすることで、自然資源を生かして里山で暮らす面白さを感じてもらえる。朝日地域に住んでいる意味を理解し、自分達で楽しみを見つけられる機会を用意する必要がある。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策 ⑥豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした、市民への自然環境教育の実践を進める。 ■前期計画に引き続き、自然環境を活用した体験ができる環境づくりを進める。	現計画に記載済み	朝日庁舎 総務企画課
12	ア	地域課題解決に向けて主体的に取り組めない団体への支援では、行政が呼び水となり、どのように働きかけるかが大事だ。	大項目 地域の振興 中項目 (5)朝日地域 小項目 ア 中山間地における定住環境の支援 主な施策 ②地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざす。 ■前期計画に引き続き、集落支援員の配置等を行い、きめ細やかな集落対策に取組む。	現計画に記載済み	朝日庁舎 総務企画課
13	ア	保育園や小学校に子どもがいる人達でも、子どもが生まれてから朝日地域を離れるケースが非常に多い。保育園への子どもの送迎があるため、毎日勤務開始までに間に合わない状況だ。子育て環境の改善について早めに手を打つ必要がある。	大項目 福祉と医療 中項目 (1)子ども・家庭・地域がともに健やかに育つ環境の充実 小項目 ウ 幼児教育・保育の充実と子育て支援サービスの向上 主な施策 ②少子化や地域の地理的な特性などを踏まえた保育のあり方を検証し、幼児教育・保育施設における保育の質の向上や運営の維持に寄与する支援を行います。 ■朝日保育園の保育時間は7:30～19:00であり、延長保育は18:30～19:00となっている。現状より開園時間を延長、拡大することは人員・予算の面から厳しい状況にあるが、今後の定住環境整備において多様化するニーズに対応した子育て支援への具体的な取組みについては、関係課と検討を深めていく。 延長保育のR4利用状況は、年間利用者23人(年間園児数852人)、利用日数は50日(開所日数280日)となっている。	意見反映	朝日庁舎 市民福祉課

7 地域と振興（大項目）					
No.		委員意見（要約）	回答	反映状況	回答課
14	イ	地域計画（地域農業のあり方と目標地図）の策定がR5開始され、この機会を捉えて農家だけでなく自治組織も含めた集落の悩みや課題を浮き彫りにしながら、集落の未来図を作っていくことが大事だ。地域のリーダーが短期間で変わる所もある中で、進む方向がしっかりしていれば地域づくりについて住民が悩むことなく進んでいける。また、地域運営組織（RMO）として総合的な地域コミュニティ組織を立ち上げ、多様な交付金活動で地域づくりにあたられるようになれば良いと考えている。先進地域の事例を研究しながら、ぜひ取り入れていければと思います。	総合計画に記載はないが、地域計画の策定を2年間(令和5～6年度)で行い、農家、農業関係者の他、自治会代表の協力を得て、地域課題も反映しながら検討していく。 農村RMO形成推進事業については中山間地域等直接支払交付金取組組織を交えた活用も想定されているところであるが、朝日地域のコミュニティの特性に合った活用方法がないか情報収集を進めていきたい。	今後検討	朝日庁舎産業建設課
15	イ	中山間直接支払交付金や多面的機能支払活動交付金を自治組織と協力しながら有効に使っている事例を参考に、広域化を進めてもらいたい。広域化が出来ない場合でも、事務処理を担う受け皿となり、中山間地域を支援してもらいたい。	大項目 朝日地域 中項目 (5) 朝日地域 小項目 イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興 施策の方向 農地保全のための地域組織活動への支援などを通して、農村集落機能の維持をめざします。 ■下線部分を新たに追加し、各活動組織からの事務受託体制整備を起点とした活動組織の広域化への促進という方針で、地域内と引き続き調整する方向であるため、計画(案)に反映する。	意見反映	朝日庁舎産業建設課
16	イ	定年退職後に時間を持て余している人が多いので、そのような人達に対し、耕作されていない農地をレンタルして畑作業をしてもらおうとか、行政からの情報発信を考えていただきたい。	現時点で朝日地域での市民農園等の事業計画は無いが、遊休農地の有効活用について検討していく必要がある。なお、農地法の改正(R5.4.1改正)により、農地取得のための要件である下限面積が撤廃されたことで、農地耕作の意向がある者の農地利用要件が緩和されていることから、耕作など興味がある方へ情報提供できるように検討していきたい。	今後検討	朝日庁舎産業建設課
17	イ	地域づくり、農林業の人材確保として、定年後に余力のある人材を、中山間地域を守るための草刈りや畑づくりなどの作業に協力してもらおうような体制ができないものか。	大項目 朝日地域 中項目 (5) 朝日地域 小項目 イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興 施策の方向 農地保全のための地域組織活動への支援などを通して、農村集落機能の維持をめざします。 ■現在、多面的機能支払交付金の活動において、農業者、農業者以外の方が協力して農地保全作業など行っている。小さな協力ができる人を繋ぐ体制整備については、今後の農地維持に必要なことと認識しており、地域事情に合わせて今後検討していく。	一部意見反映	朝日庁舎産業建設課 農振担当

7 地域と振興（大項目）					
No.		委員意見（要約）	回答	反映状況	回答課
18	ウ	食文化創造都市推進課の依頼で東京で「笹巻」と「栃餅」の作り方を指導してきた。参加者からは、朝日へ訪ねて「栃餅」の里を見たい、「笹巻」づくりを見学したいと言われた。現状は、鳥獣や蜂が多くなり「笹巻」の笹の葉を採ることが容易でなく、「栃餅」は高齢化で山に栃の実拾いに行くのが容易でなくなっている。東京から朝日地域に人を呼び込むことができないか。	大項目 朝日地域 中項目 (5) 朝日地域 小項目 ウ自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興 主な施策 ②地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化など観光資源の複合的な活用を進めるとともに、 <u>近隣地域との連携により地域資源の魅力を高め</u> て交流人口の拡大を図ります。 ■下線部分を追加し、地域の観光資源ともなりうる、笹巻、栃餅などを収穫、加工も含めて総合的な観光体験の場を提供するため、周辺環境整備を含めて検討する。	意見反映	朝日庁舎 産業建設課
19	ウ	地域の子供達をはじめ、地域での観光イベントの住民認知度が低い。コロナ禍でしばらく開催できない状況だったが、この機会をチャンスと捉えて盛り返さないといけない。さらに、SNSでの宣伝は効果があり、素晴らしい風景があれば写真を撮影で人が多く訪れ、地元産品も売れるという好循環が生まれてくる。	大項目 地域と振興 中項目 (5) 朝日地域 小項目 ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興 主な施策 ②地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化などを観光資源としての複合的な活用を進めるとともに、 <u>近隣地域との連携により地域資源の魅力を高め</u> て交流人口の拡大を図ります。 <u>あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。</u> ■下線を追加し、観光イベントの積極的な情報発信等、月山あさひ雪まつり2024から対応させていただき、計画(案)に反映する。	意見反映	朝日庁舎 産業建設課